

徳島県感染症発生動向調査事業年報

Annual Report of The Tokushima Infectious Diseases Surveillance

【2023（令和5）年版】

徳島県立保健製薬環境センター
（徳島県感染症情報センター）

はじめに

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症法」）」に基づき、感染症発生状況を把握・分析し、情報提供することにより、感染症の発生及びまん延防止を図ることを目的としています。

まず、新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月に感染症法上の分類が5類に移行後も、人が移動する機会の多い時期に感染者が増加する傾向が認められています。当センターでは、インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症定点医療機関の御協力により、現在もゲノム解析に取り組み、県内の変異株の監視を継続し、流行株の推移を注視しているところです。

さて、2023年の当県における感染症発生動向としましては、多くの感染症が増加傾向に転じました。

このうち、全数把握対象疾患では、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、百日咳が例年よりも増加し、定点把握対象疾患では、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナの増加が認められました。

感染症発生動向調査事業は、有効な感染症対策を的確に行うため、明確なエビデンスとして利用される大変重要なものです。そのため、実施主体である保健製薬環境センターの役割と責任は、ますます重要であると考えております。感染症対策の一層の強化と充実を図るため、海外からの情報を含め健康危機に関する情報を常に把握し、今後も状況の変化に応じ、迅速かつ的確な調査と情報提供を行えるよう、疫学情報部門と検査部門との連携のもと、事前対応型の業務推進に努力してまいります。

このたび、2023（令和5）年における徳島県の感染症情報を整理し、年報を作成しましたので、感染症対策の資料として御活用いただければ幸いです。

なお、この事業の実施にあたり、御尽力をいただきました県内各医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、今後も本事業の推進になお一層の御指導、御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024（令和6）年12月
徳島県立保健製薬環境センター
（徳島県感染症情報センター）
所長 相原 文枝

目 次

1. 感染症発生動向調査について	1
2. 全数把握対象感染症患者届出状況	
(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況	5
(2) 各疾病の届出状況	
① 結核	6
② 腸管出血性大腸菌感染症	7
③ 重症熱性血小板減少症候群	8
④ つつが虫病	9
⑤ 日本紅斑熱	9
⑥ ライム病	9
⑦ レジオネラ症	9
⑧ アメーバ赤痢	10
⑨ ウイルス性肝炎	10
⑩ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	10
⑪ クロイツフェルト・ヤコブ病	11
⑫ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11
⑬ 後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	11
⑭ 侵襲性インフルエンザ菌感染症	11
⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症	12
⑯ 梅毒	12
⑰ 破傷風	16
⑱ 百日咳	17
⑲ 新型コロナウイルス感染症	20
3. 定点把握対象感染症患者報告状況（週報）	
(1) 過去5年間の報告状況	21
(2) 各疾病の報告状況	
① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	22
② 新型コロナウイルス感染症	23
③ RSウイルス感染症	24

④	咽頭結膜熱	25
⑤	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26
⑥	感染性胃腸炎	27
⑦	水痘	28
⑧	手足口病	29
⑨	伝染性紅斑	30
⑩	突発性発しん	31
⑪	ヘルパンギーナ	32
⑫	流行性耳下腺炎	33
⑬	急性出血性結膜炎	34
⑭	流行性角結膜炎	34
⑮	細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）	35
⑯	無菌性髄膜炎	35
⑰	マイコプラズマ肺炎	36
⑱	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	36
⑲	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	37

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

(1)	過去5年間の報告状況	38
(2)	性感染症患者報告状況	
①	性器クラミジア感染症	38
②	性器ヘルペスウイルス感染症	39
③	尖圭コンジローマ	40
④	淋菌感染症	40
(3)	薬剤耐性菌感染症患者報告状況	
①	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	41
②	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	41
③	薬剤耐性緑膿菌感染症	41

5. 病原体検査検出結果

(1)	ウイルス検査結果	42
(2)	細菌検査結果	44

6. 資料	48
(1) 全数把握対象疾患の患者数	
付表1：2023（令和5）年全数把握対象疾患の月別患者数	49
付表2：2023（令和5）年全数把握対象疾患の保健所別患者数	49
(2) 定点把握対象疾患（週報）の患者数	
付表3：2023（令和5）年定点把握対象疾患（週）の週別患者報告数	50
付表4：2023（令和5）年定点把握対象疾患（週）の週別定点あたり患者報告数	52
付表5：2023（令和5）年定点把握対象疾患（週）の保健所別患者報告数	54
付表6：2023（令和5）年定点把握対象疾患（週）の保健所別定点あたり患者報告数	58
付表7：2023（令和5）年定点把握対象疾患（週）の年齢階級別報告数	62
(3) 定点把握対象疾患（月報）の患者数	
付表8：2023（令和5）年定点把握対象疾患（月）の月別患者報告数	63
付表9：2023（令和5）年定点把握対象疾患（月）の年齢階級・性別報告数	64
(4) 警報・注意報発生システムについて	65
(参考資料) 徳島県感染症発生動向調査事業要綱	

2023（令和 5）年

感染症発生動向調査事業報告

1. 感染症発生動向調査について

(1) 概略

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「感染症法」という。）」により、事前対応型感染症対策の一つとして位置づけられています。患者発生状況や病原体検索から流行を早期に把握し、適切な対応をとることによって社会的影響の大きい感染症の蔓延を未然に防止することを目的とし実施されています。

徳島県では、保健製薬環境センター内に徳島県感染症情報センターを設置し、「徳島県感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき関係医療機関等の協力を得て当事業を実施しています。

(2) 調査対象疾患について

感染症法により指定されている全数把握対象疾患及び五類定点把握対象疾患を調査対象疾患として実施しています。また、厚生労働省で定める疑似症も対象にしています（別表）。

(3) 定点医療機関（指定届出・提出機関）

患者定点となる医療機関数は、小児科定点が 23、内科定点が 14、眼科定点が 4、性感染症（STD）を対象とする定点が 6、基幹定点が 7 設定されており、このうち 12 医療機関が病原体定点を兼ねています。

保健所別定点医療機関数

		患者定点					疑似症 定点	計
		小児科	内科	眼科	性感染症	基幹		
(管轄保健所)	徳島	13	7	2	4	2	5	33
	阿南	2	2	1	1	1	—	7
	美波	1	1	1	—	1	1	5
	吉野川	3	2	—	1	1	—	7
	美馬	2	1	—	—	1	—	4
	三好	2	1	—	—	1	1	5
計		23	14	4	6	7	7	61

(※ 小児科定点及び内科定点をあわせてインフルエンザ／新型コロナウイルス感染症定点とする。)

(4) 運営方法（図 1）

患者情報の収集：一類から五類の全数把握対象感染症、新型インフルエンザ等感染症では、診断した医師が保健所に届出を行うことにより、また、五類の定点把握対象感染症、疑似症では、定点医療機関を受診した患者数を把握することにより流行状況を調査しています。

小児科定点、インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症定点、眼科定点及び基幹定点からは週単位で、性感染症定点からは月単位で報告されています。ただし基幹定点から報告される一部の疾病については月単位となっています。

(<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kenko/kansensho/2004062300038/>)

別表 感染症の分類について

(2023 (令和 5) 年 9 月 25 日施行)

類型			疾患名	届出対象者			届出方法	
				患者	疑似患者	無症状 病原体 保有者	届出 種別	時期
全数把握感染症	一類 感染症	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
		2	クリミア・コンゴ出血熱					
		3	痘そう					
		4	南米出血熱					
		5	ペスト					
		6	マールブルグ病					
		7	ラッサ熱					
	二類 感染症	8	急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
		9	結核	○	○	○		
		10	ジフテリア	○	—	○		
		11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○		
		12	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○		
		13	鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
		14	鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○		
	三類 感染症	15	コレラ	○	—	○	全数	直ちに
		16	細菌性赤痢	○	—	○		
		17	腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
		18	腸チフス	○	—	○		
		19	パラチフス	○	—	○		
	四類 感染症	20	E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
		21	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
		22	A型肝炎	○	—	○		
		23	エキノコックス症	○	—	○		
		24	エムボックス	○	—	○		
		25	黄熱	○	—	○		
		26	オウム病	○	—	○		
		27	オムスク出血熱	○	—	○		
		28	回帰熱	○	—	○		
		29	キャサヌル森林病	○	—	○		
		30	Q熱	○	—	○		
		31	狂犬病	○	—	○		
		32	コクシジオイデス症	○	—	○		
		33	ジカウイルス感染症	○	—	○		
		34	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
		35	腎症候性出血熱	○	—	○		
		36	西部ウマ脳炎	○	—	○		
		37	ダニ媒介脳炎	○	—	○		
		38	炭疽	○	—	○		
		39	チクングニア熱	○	—	○		
		40	つつが虫病	○	—	○		
		41	デング熱	○	—	○		
		42	東部ウマ脳炎	○	—	○		
		43	鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く。)	○	—	○		
		44	ニパウイルス感染症	○	—	○		
		45	日本紅斑熱	○	—	○		
		46	日本脳炎	○	—	○		
		47	ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
		48	Bウイルス病	○	—	○		
		49	鼻疽	○	—	○		
		50	ブルセラ症	○	—	○		
		51	ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
		52	ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
		53	発しんチフス	○	—	○		
		54	ボツリヌス症	○	—	○		
		55	マラリア	○	—	○		
		56	野兔病	○	—	○		
		57	ライム病	○	—	○		
		58	リッサウイルス感染症	○	—	○		
		59	リフトバレー熱	○	—	○		
		60	類鼻疽	○	—	○		

類型			疾患名	届出対象者			届出方法		
				患者	疑似患者	無症状 病原体 保有者	届出 種別	時期	
全数把握感染症	感 染 症 四 類	61	レジオネラ症	○	—	○	全 数	直 ち に	
		62	レプトスピラ症	○	—	○			
		63	ロッキー山紅斑熱	○	—	○			
	五 類 感 染 症	64	アメーバ赤痢	○	—	—	全 数	7 日 以 内	
		65	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	○	—	—			
		66	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○	—	—			
		67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	○					
		68	急性脳炎 （ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）	○	—	—			
		69	クリプトスポリジウム症	○	—	—			
		70	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—			
		71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—			
		72	後天性免疫不全症候群	○	—	○			
		73	ジアルジア症	○	—	—			
		74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—			
		75	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—			
		76	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—			
		77	水痘（入院例に限る。）	○	—	—			
		78	先天性風しん症候群	○	—	—			
		79	梅毒	○	—	○			
		80	播種性クリプトコックス症	○	—	—			
		81	破傷風	○	—	—			
		82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—			
	83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—				
	84	百日咳	○	—	—	直ちに			
	85	風しん	○	—	—				
	86	麻しん	○	—	—				
	87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—				
定点把握感染症（五類感染症）	小 児 科	88	RSウイルス感染症	○	—	—	定 点	週 単 位	
		89	咽頭結膜熱	○	—	—			
		91	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—			
		92	感染性胃腸炎	○	—	—			
		97	水痘	○	—	—			
		101	手足口病	○	—	—			
		102	伝染性紅斑	○	—	—			
		103	突発性発しん	○	—	—			
		105	ヘルパンギーナ	○	—	—			
		111	流行性耳下腺炎	○	—	—			
	／イン フル エン ザ 等 感 染 症	90	インフルエンザ （鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）	○	—	—			
		96	新型コロナウイルス感染症 （病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民 共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報 告されたものに限る。）であるものに限る。）	○	—	—			
	眼 科	93	急性出血性結膜炎	○	—	—		月 単 位	
		110	流行性角結膜炎	○	—	—			
	性 感 染 症	98	性器クラミジア感染症	○	—	—			
		99	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—			
		100	尖圭コンジローマ	○	—	—			
	基 幹	112	淋菌感染症	○	—	—			週 単 位
		92	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）	○	—	—			
		94	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）	○	—	—			
95		細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された 場合を除く。）	○	—	—	月単位			
104		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—				
106		マイコプラズマ肺炎	○	—	—	週単位			
107		無菌性髄膜炎	○	—	—				
108		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—	月単位			
109		薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—				
新型インフ ルエンザ等 感染症		113	新型インフルエンザ	○	（疑うに足 る正当な理由 のあるもの）	○	全 数	直ちに	
		114	再興型インフルエンザ	○		○			
		115	新型コロナウイルス感染症	○		○			
		116	再興型コロナウイルス感染症	○		○			
法第14条第1項に 規定する厚生労働 省令で定める疑似 症		117	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認め られている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断す ることができないと判断したもの。						
法第14条第8項の 規定に基づく把握 の対象		118	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認 められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断 することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生し、又 は発生するおそれがあると判断し、都道府県知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づ き届出を求めたもの。						

２．全数把握対象感染症患者届出状況

（１）全数把握対象感染症の過去５年間の届出状況

	疾 患 名	2019 年 (令和元年)	2020 年 (令和2年)	2021 年 (令和3年)	2022 年 (令和4年)	2023 年 (令和5年)
二類	結核	136	123	131	95	80
三類	細菌性赤痢	1				
	腸管出血性大腸菌感染症	14	17	19	19	11
	パラチフス					
四類	A型肝炎		1		1	
	重症熱性血小板減少症候群	9		3	1	4
	つつが虫病		3		2	2
	デング熱	1				
	日本紅斑熱	12	7	10	13	7
	マラリア	1				
	ライム病					1
	レジオネラ症	13	21	23	17	14
五類	アメーバ赤痢	7	1	2	2	1
	ウイルス性肝炎(E型、A型を除く)	2	1		1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	11	7	13	11	1
	急性弛緩性麻痺(急性白髄炎を除く) ¹⁾					
	急性脳炎	2		1		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2	3		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	2		2	5
	後天性免疫不全症候群	4	3	4	4	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	5	3	2	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1			
	侵襲性肺炎球菌感染症	11	7	6	5	2
	水痘(入院例)	5	3	4	1	
	梅毒	30	23	21	67	78
	播種性クリプトкокクス症	3	2	4	2	
	破傷風		1	4	1	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			
	百日咳 ²⁾	80	3	43	67	78
	風しん	2				
	麻しん	1				
※	新型コロナウイルス感染症 ³⁾		199	3,092	130,116	34,779

※新型インフルエンザ等感染症

¹⁾平成30年5月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

²⁾平成30年1月1日より定点把握対象疾患(五類感染症)から全数把握対象疾患感染症へ変更された。

³⁾令和2年2月1日より指定感染症に追加指定、令和3年2月13日より新型インフルエンザ等感染症に変更、令和5年5月8日より定点把握対象疾患感染症(五類感染症)へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

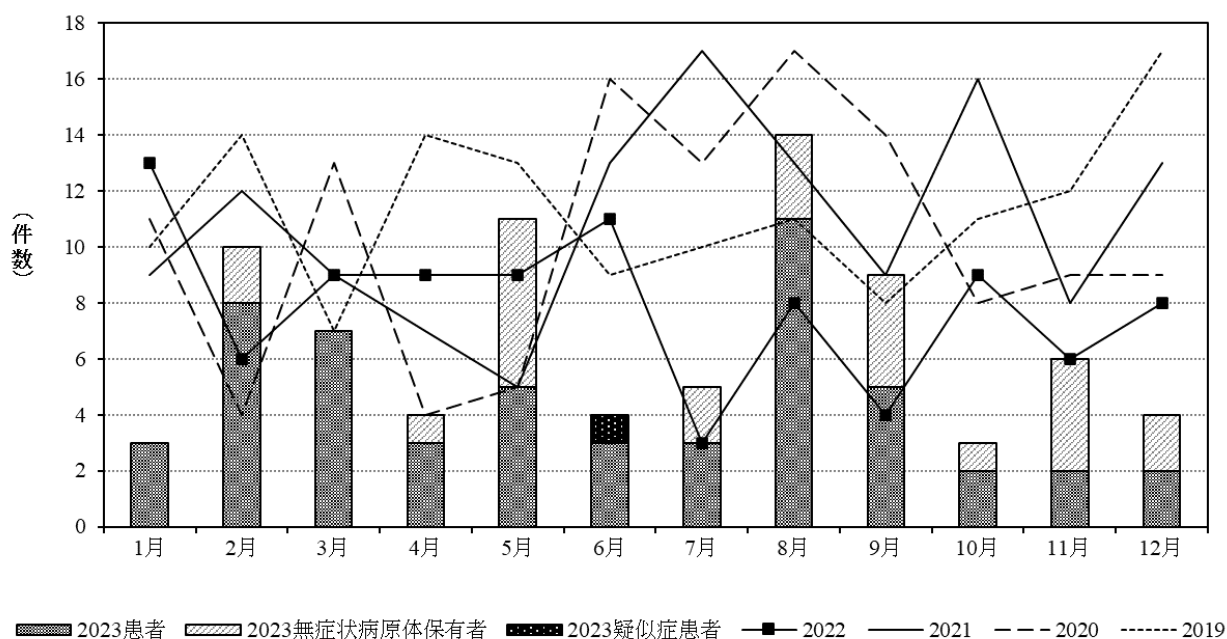
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

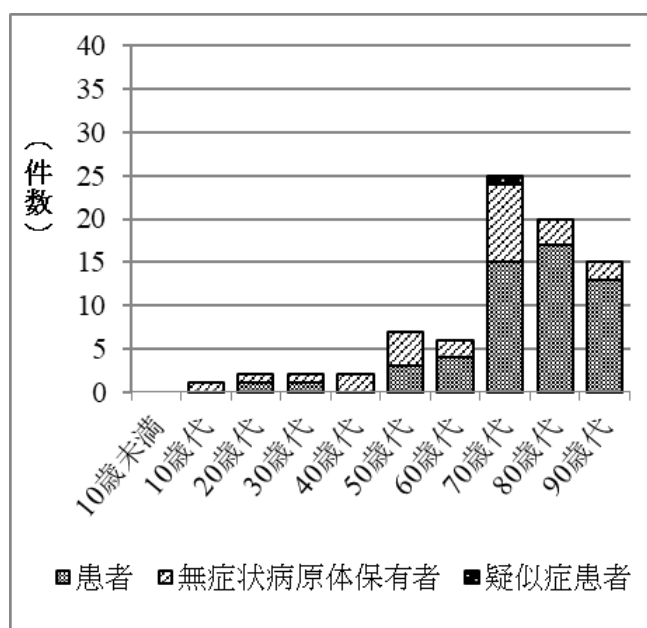
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	0	0	0
10歳代	0	1	1
20歳代	1	1	2
30歳代	1	1	2
40歳代	0	2	2
50歳代	2	5	7
60歳代	2	4	6
70歳代	14	11	25
80歳代	11	9	20
90歳以上	4	11	15
計	35	45	80

【年齢・症状別届出数】



年間届出数は 80 件で、前年（95 件）より減少した。

診断の類型では、「患者」が 54 件（内訳：肺結核 41 件、その他の結核 9 件、肺結核及びその他の結核 4 件）と最も多く、「無症状病原体保有者」は 25 件、「疑似症患者」は 1 件であった。

年齢別にみると、70 歳代（25 件）、80 歳代（20 件）、90 歳以上（15 件）と、70 歳以上の届出が合計 60 件と全体の 75%を占めた。性別では、男性 35 件、女性 45 件と女性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、70 歳以上では「患者」が 75%と大部分を占めたのに対し、70 歳未満では「無症状病原体保有者」の割合が 55%、「患者」の割合が 45%であった。

職業別では、医療・介護などの施設関係者や厨房職員等、集団感染に繋がる環境で従事する者も見られたことより、感染拡大防止のため施設関係者等に対し、感染予防啓発や施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

《三類感染症》

② 腸管出血性大腸菌感染症

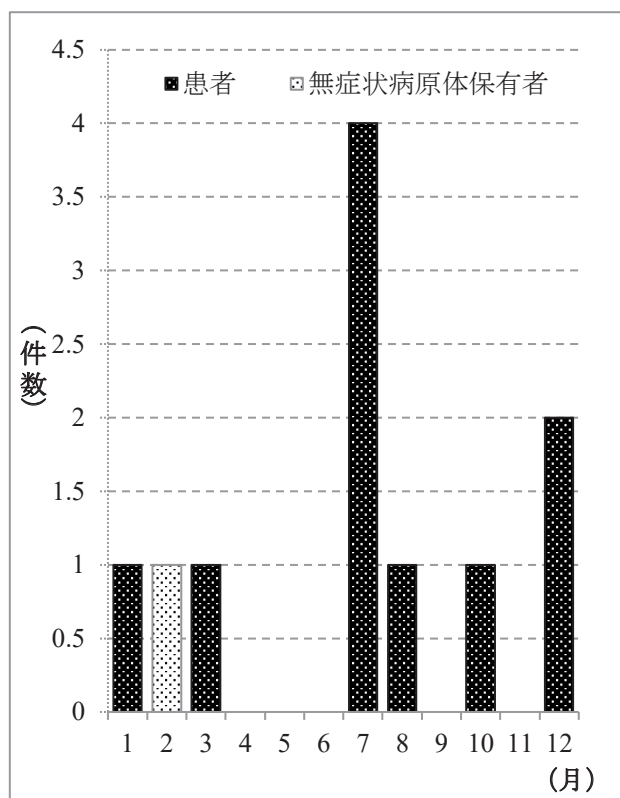
診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
1 月	女	30 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT2)	国内
2 月	女	60 歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT2)	国内
3 月	女	60 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐	O26 (VT1)	国内
7 月	男	10 歳未満	腹痛、血便	O157 (VT2)	不明
7 月	女	20 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157 (VT2)	国内
7 月	男	60 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT2)	国内
7 月	男	70 歳代	水様性下痢、血便、発熱	O26 (VT1)	国内
8 月	女	70 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1,2)	国内
10 月	女	40 歳代	腹痛、血便	O157 (VT2)	国内
12 月	男	10 歳代	腹痛、水様性下痢、発熱	O157 (VT2)	国内
12 月	女	10 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐	O157 (VT2) O103 (VT1)	不明

年間届出数は 11 件で、前年（19 件）より減少した。一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出数推移では、7～8 月に 5 件と約 45%を占めた。

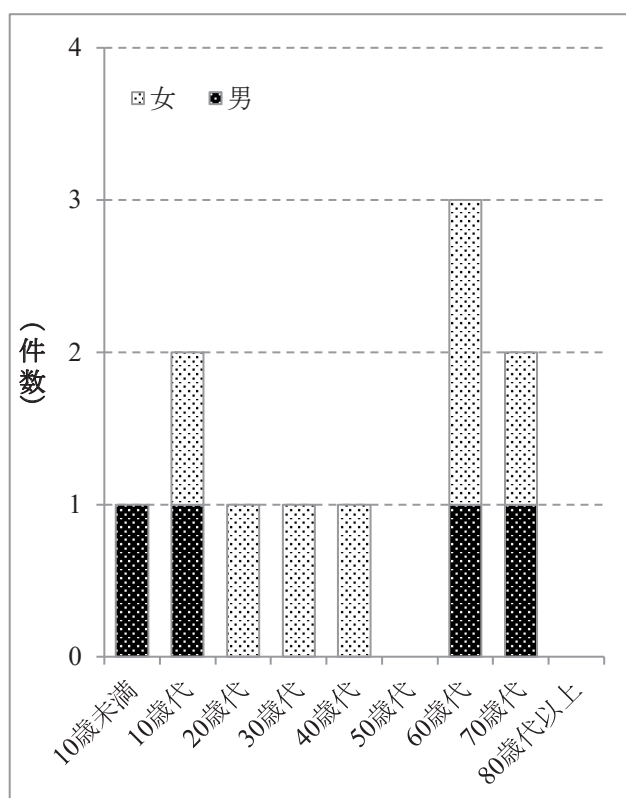
年齢別では、10 歳未満～70 歳代まで幅広い年齢層で届出があり、性別では、男性 4 件、女性 7 件であった。診断の類型では「患者」が 10 件、「無症状病原体保有者」が 1 件と「患者」が多く、症状は腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱など複数の症状を訴えていた。血清型別は、本疾患の多くを占める O157 が 8 件、O26 が 2 件、O103 と O157 を共に検出した届出が 1 件であった。

推定感染経路は、肉の喫食等の経口感染 6 件、不明 5 件であった。推定感染地域は国内 9 件、不明 2 件であった。

【腸管出血性大腸菌感染症の月別・症状別届出数】



【腸管出血性大腸菌感染症の年齢・性別届出数】



《四類感染症》

③ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	男	70 歳代	発熱、筋肉痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
6 月	女	70 歳代	発熱、神経症状、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	県内
6 月	女	60 歳代	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少	マダニ等からの感染	国内
10 月	女	70 歳代	発熱、神経症状、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	県内

年間届出数は4件で、前年（1件）より増加した。届出月は6月と10月で、マダニの活動時期にあたる春から秋であった。年齢及び性別は70歳代女性が2件、70歳代男性と60歳代女性が1件ずつであった。感染経路は、草抜き、農作業等の野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定された。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、病原体を保有するマダニ等の刺咬による感染症が毎年発生しており、重症化例も見られる。近年のキャンプブームや登山などの人気の高まりを受け、草むらや山林などマダニの生息地に人が近づく機会が増えており、野外活動時の、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

④ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	50 歳代	頭痛、発熱、発疹	不明	県内
12 月	女	60 歳代	発熱、刺し口	動物・蚊・昆虫等からの感染	県内

年間届出数は 2 件であった。届出月は 6 月と 12 月で、年齢及び性別は 50 歳代と 60 歳代の女性が 1 件ずつであった。推定感染地域は、全て県内であった。推定感染経路は、動物・蚊・昆虫等からの感染 1 件、不明 1 件であった。

⑤ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	男	60 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内
6 月	男	70 歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内
7 月	男	80 歳代	発熱、発疹、肝機能異常	不明	国内
8 月	男	60 歳代	発熱、刺し口、全身倦怠感	マダニ等からの感染	県内
8 月	男	80 歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
10 月	女	70 歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内
10 月	男	40 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内

年間届出数は 7 件で、前年（13 件）より減少した。届出月は 5～10 月と、マダニの活動時期と一致していた。年齢別では 40 歳代 1 件、60 歳代 2 件、70 歳代 2 件、80 歳代 2 件であった。性別では男性 6 件、女性 1 件であった。推定感染地域は全て国内で、県内は 5 件であった。推定感染経路は農作業等の野外活動時にマダニ等からの刺咬による感染 6 件、不明 1 件であった。

⑥ ライム病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10 月	女	60 歳代	遊走性紅斑、発熱、激しい頭痛	動物・蚊・昆虫等からの感染	県内

年間届出数は 1 件であり、2016 年以降 7 年ぶりの発生となった。届出月は 10 月で、年齢及び性別は 60 歳代の女性であった。推定感染経路は、動物・蚊・昆虫等からの感染であり、推定感染地域は県内であった。

⑦ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	男	70 歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
6 月	女	50 歳代	発熱、咳嗽、下痢、肺炎	不明	国内
6 月	男	70 歳代	発熱、肺炎	土壌	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7 月	女	90 歳代	発熱、肺炎	不明	不明
7 月	男	70 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
7 月	男	80 歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
7 月	男	50 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
7 月	男	80 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
8 月	男	60 歳代	咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
10 月	女	90 歳代	発熱、呼吸困難、肺炎、歩行困難	不明	国内
11 月	男	60 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
11 月	男	60 歳代	発熱、肺炎	不明	国内
11 月	男	80 歳代	発熱、呼吸困難、腹痛、意識障害、肺炎	不明	国内
12 月	女	40 歳代	咳嗽、肺炎	不明	国内

年間届出数は 14 件であった。2015 年以前は年間 1～5 件で推移していたが、2016 年以降は毎年 10 件を超えている。届出月は、6～8 月、10～12 月で、年齢は 40～90 歳代であり、性別は男性 10 件、女性 4 件であった。病型は全て「肺炎型」であった。推定感染経路は水系感染が 3 件、土壌が 1 件、不明が 10 件、推定感染地域は国内 13 件、不明 1 件であった。

《五類感染症》

⑧ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10 月	男	60 歳代	下痢	不明	不明

年間届出数は 1 件であり、2020 年以降は 1～2 件で推移している。年齢及び性別は 60 歳代の男性であった。病型は「腸管アメーバ症」で、推定感染経路及び推定感染地域は不明であった。

⑨ ウイルス性肝炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7 月	女	10 歳未満	肝機能異常	接触感染	国内
8 月	男	10 歳未満	発熱、肝機能異常	接触感染	国内

年間届出数は 2 件で、過去 10 年間の届出数は 0～2 件で推移している。年齢は、いずれも 10 歳未満で、性別は男性 1 件、女性 1 件であった。病原体は「コクサッキーウイルス A 群 2 型」、「アデノウイルス」が検出されており、いずれも推定感染経路は接触感染で、推定感染地域は国内であった。

⑩ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
8 月	男	80 歳代	尿路感染症、菌血症	医療器具関連感染（尿路カテーテル）	国内

年間届出数は 1 件で、過去 5 年間で最も少なかった。年齢及び性別は、80 歳代の男性であった。推定感染経路は医療器具（尿路カテーテル）を介しての感染で、推定感染地域は国内であった。

⑪ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	80 歳代	進行性認知症、ミオクロヌス、錐体路症状、小脳症状、記憶障害、精神・知能障害	不明	不明
10 月	女	80 歳代	進行性認知症、ミオクロヌス、錐体路症状、錐体外路症状、小脳症状、記憶障害、筋強剛	不明	不明

年間届出数は 2 件であった。年齢は、いずれも 80 歳代で、性別は、男性 1 件、女性 1 件であった。病型は「古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（以下 CJD）」と「家族性 CJD」で、いずれも推定感染経路及び推定地域は不明であった。

⑫ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10 月	男	50 歳代	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	国内
11 月	女	60 歳代	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC	飛沫・飛沫核感染	国内
11 月	男	70 歳代	ショック、肝不全、腎不全、軟部組織炎	創傷感染	国内
12 月	男	80 歳代	ショック、肝不全、腎不全、DIC	不明	国内
12 月	男	80 歳代	ショック、DIC、軟部組織炎	不明	国内

年間届出数は 5 件で、過去 10 年間で最も多かった。年齢は 80 歳代 2 件、50 歳代、60 歳代、70 歳代が 1 件ずつで、性別は男性 4 件、女性 1 件であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染 1 件、創傷感染 1 件、不明 3 件、推定感染地域はいずれも国内であった。血清群は、A 群 4 件、G 群 1 件であった。

⑬ 後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	50 歳代	小脳失調、構音障害、歩行困難	性的接触	国内
5 月	男	20 歳代	無症状病原体保有者	性的接触	国内

年間届出数は 2 件であり、過去 10 年間で最も少なかった。年齢は 20 歳代と 50 歳代で、性別はいずれも男性であった。病型は「AIDS」と「無症候性キャリア」で、いずれも推定感染経路は性的接触で、推定感染地域は国内であった。

⑭ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9 月	女	70 歳代	菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内

年間届出数は 1 件であり、過去 5 年間で最も少なかった。年齢及び性別は、70 歳代の女性であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であり、経気道感染が考えられた。推定感染地域は国内と推定された。

⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8 月	男	10 歳未満	発熱、咳、嘔吐、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
12 月	女	10 歳未満	発熱、全身倦怠感、菌血症	不明	国内

年間届出数は 2 件であり、過去 10 年間で最も少なかった。年齢はいずれも 10 歳未満で、性別は男性 1 件、女性 1 件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1 件、不明 1 件で、推定感染地域はいずれも国内であった。

⑯ 梅毒

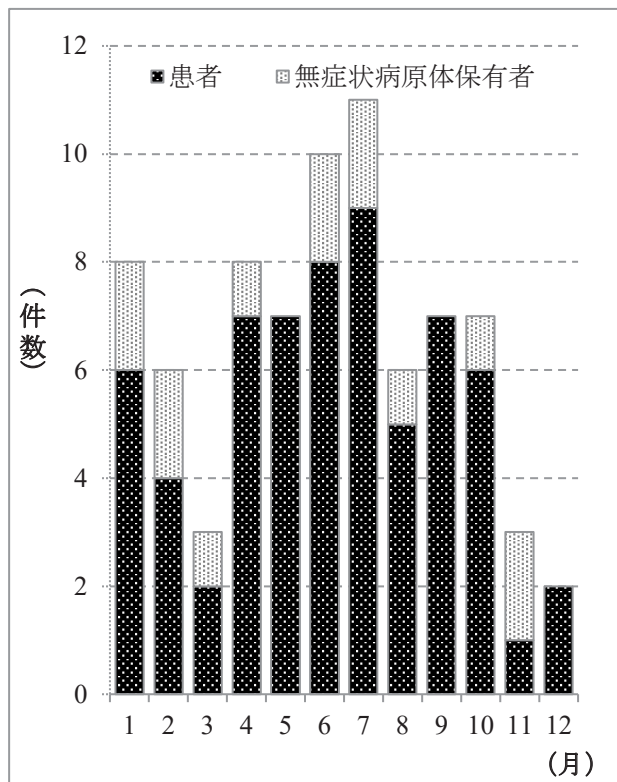
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
1 月	女	30 歳代	硬性下疳（口腔咽頭）、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
1 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
1 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
1 月	男	40 歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内
1 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
1 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
1 月	男	20 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
2 月	男	40 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
2 月	男	20 歳代	硬性下疳（肛門）	同性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
2 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
3 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
3 月	男	60 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	同性間性的接触	国内
3 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
4 月	男	70 歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
4 月	女	10 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
4 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	男	50 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	男	40 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5 月	女	30 歳代	硬性下疳（性器・肛門）	異性間性的接触	国内
5 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
5 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	同性間性的接触	国内
5 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	不明
5 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
5 月	男	50 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
6 月	女	40 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
6 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
6 月	女	10 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
6 月	女	40 歳代	梅毒性バラ疹	不明	不明
6 月	男	50 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
6 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器・下腹部）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
6 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
6 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
6 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
6 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）	性的接触	国内
7 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	性的接触	国内
7 月	男	30 歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	不明	不明
7 月	女	30 歳代	梅毒性バラ疹、耳介後リンパ節腫脹（無痛性）	不明	国内
7 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7 月	女	40 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
7 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内

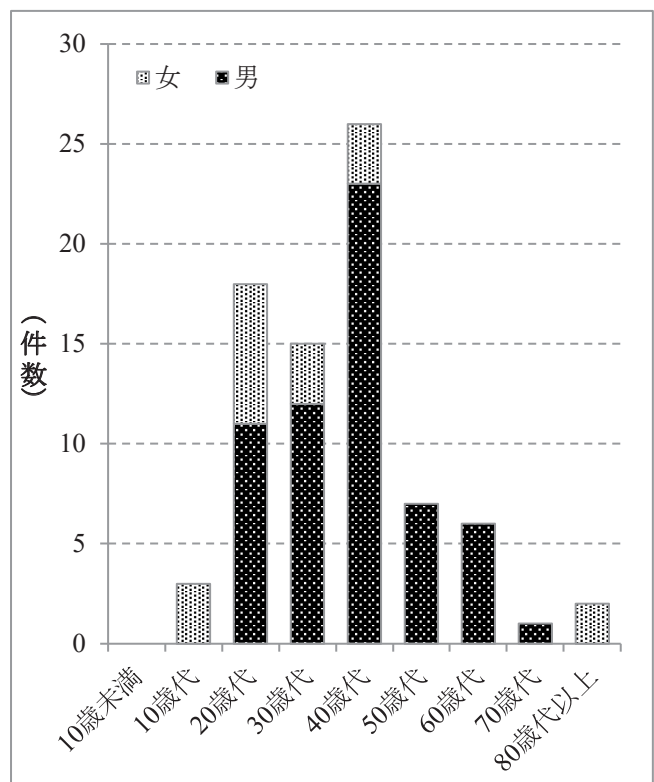
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
7 月	男	60 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	不明
7 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
7 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
8 月	女	90 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
8 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
8 月	男	50 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
8 月	男	20 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
8 月	男	40 歳代	眼症状	性的接触	国内
8 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
9 月	女	10 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
9 月	女	20 歳代	梅毒性バラ疹、眼症状	異性間性的接触	国内
9 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
9 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
9 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
9 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
9 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
10 月	男	50 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
10 月	男	30 歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内
10 月	女	20 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
10 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
10 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10 月	女	90 歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
11 月	男	50 歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内
11 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
11 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
12 月	男	50 歳代	硬性下疳（性器）、梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
12 月	女	20 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内

年間届出数は78件で、前年(67件)よりも増加した。病型では、早期顕症梅毒Ⅰ期41件、早期顕症梅毒Ⅱ期23件、無症候14件であった。年齢別では10歳代3件、20歳代18件、30歳代15件、40歳代26件、50歳代7件、60歳代6件、70歳代1件、80歳以上2件であった。性別では男性60件、女性18件であり、性別で症状を比較した場合、「患者」の割合は、男性では約87%、女性では約67%であった。推定感染地域は国内が70件、不明8件であった。推定感染経路は、性的接触69件(同性間4件、異性間57件、性別不明8件)、不明9件であった。

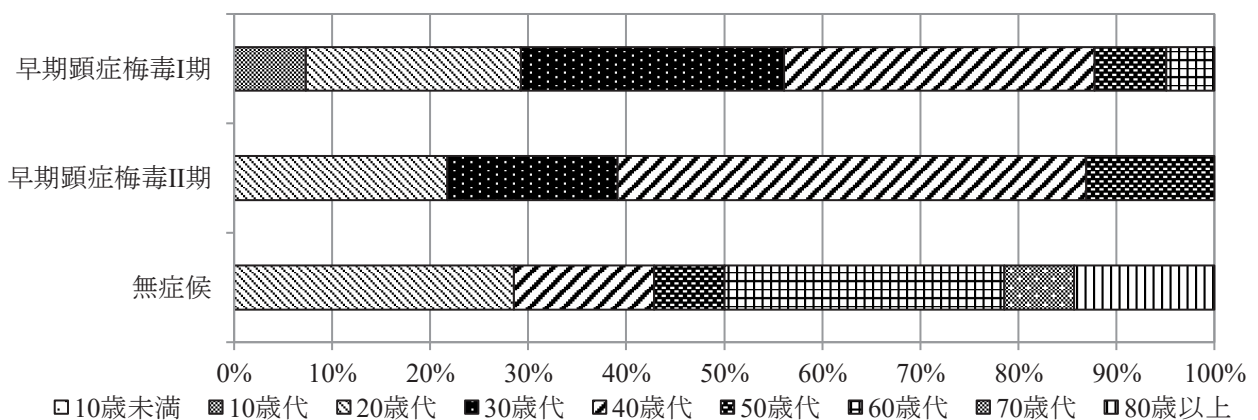
【梅毒の月別届出数】



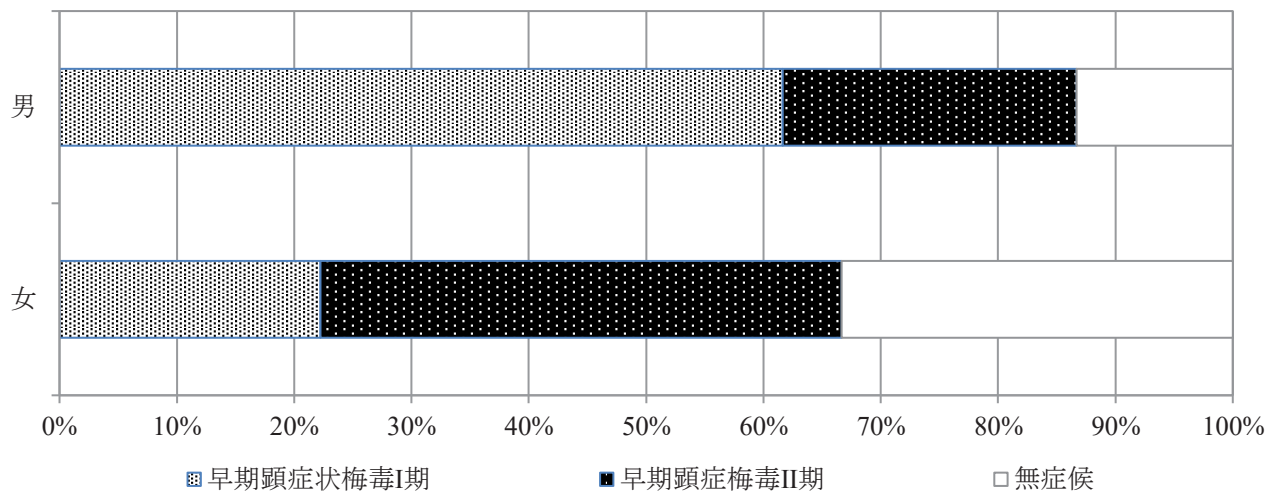
【梅毒の年齢・性別届出数】



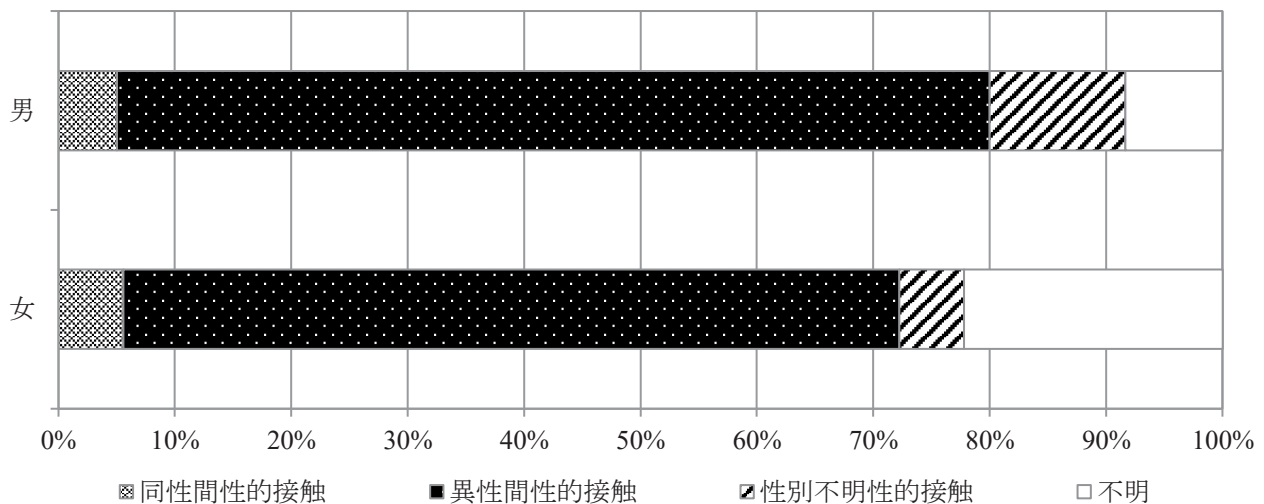
【梅毒の病型・年齢別届出数】



【梅毒の病型・性別届出数】



【梅毒の感染経路・性別届出数】



⑰ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	男	60 歳代	開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣	錆びた釘の刺入による感染	国内
12 月	男	30 歳代	嚥下障害、発語障害、痙攣、反弓緊張	その他（サバイバル訓練）	国内

年間届出数は2件であった。過去10年間の届出数は0～4件で推移している。年齢は30歳代と60歳代で、性別はいずれも男性であった。推定感染経路は錆びた釘の刺入による感染とサバイバル訓練での傷等からの感染であり、推定感染地域はいずれも国内であった。

⑱ 百日咳

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
2 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
2 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	学校感染	国内
3 月	男	80 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
3 月	女	70 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
3 月	女	80 歳代	持続する発熱	家族内感染	国内
3 月	女	80 歳代	持続する咳、咽頭不快感	家族内感染	国内
3 月	女	80 歳代	夜間の咳き込み、発熱	家族内感染	国内
4 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	呼吸苦、発熱、鼻汁、目の腫れ	家族内感染	国内
5 月	女	40 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、咽頭痛	不明	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5 月	男	40 歳代	白血球数増多	不明	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内

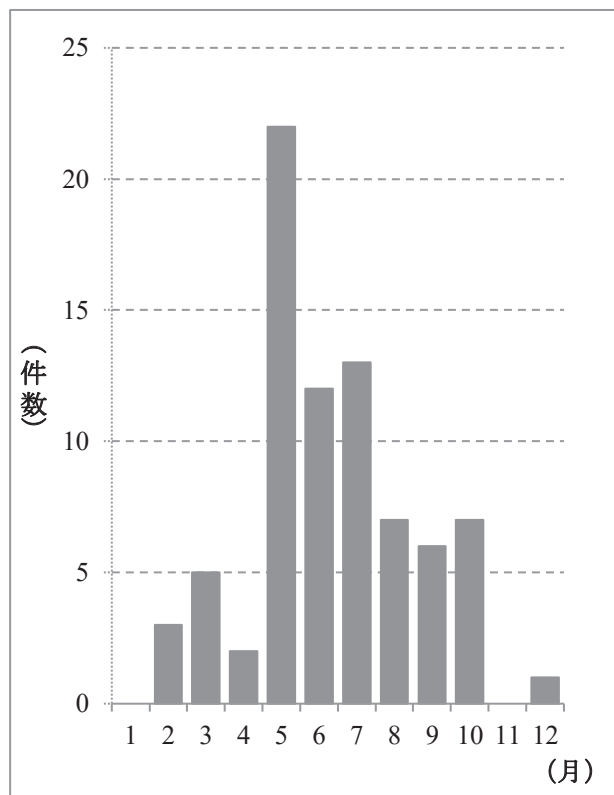
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	女	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	女	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	女	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
8 月	女	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
8 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
8 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐	家族内感染	国内
9 月	女	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
9 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9 月	男	30 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、 スタックート、ウーブ	家族内感染	国内
9 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
9 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
9 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
10 月	男	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
10 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
10 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
10 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、スタックート、ウープ	家族内感染	国内
10 月	女	10 歳未満	持続する咳、気管支炎	不明	国内
10 月	男	20 歳代	白血球数増多、肺炎、発熱、血痰、頭痛、倦怠感	家族内感染	国内
12 月	女	40 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	不明

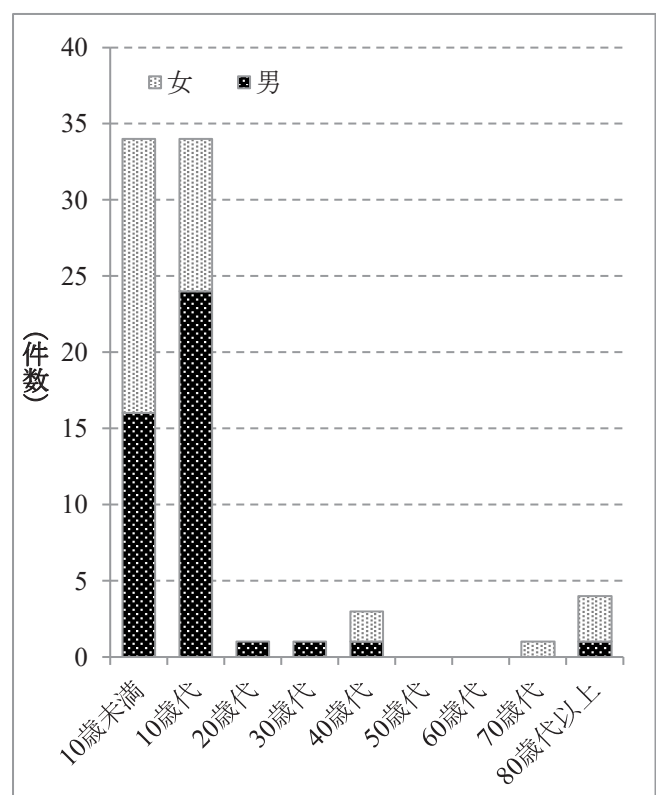
年間届出数は 78 件と、前年（67 件）より増加した。年齢別は 10 歳未満 34 件、10 歳代 34 件、20 歳代 1 件、30 歳代 1 件、40 歳代 3 件、70 歳代 1 件、80 歳代 4 件で、性別は男性 44 件、女性 34 件であった。推定感染経路は家族内感染が 65 件、学校関連の感染が 3 件、不明が 10 件であった。推定感染地域は国内が 77 件、不明が 1 件であった。

百日咳含有ワクチン接種歴は、4 回 47 件、3 回 2 件、不明 29 件であった。診断方法は、78 件全て抗原検査であった。

【百日咳の月別届出数】



【百日咳の年齢・性別届出数】



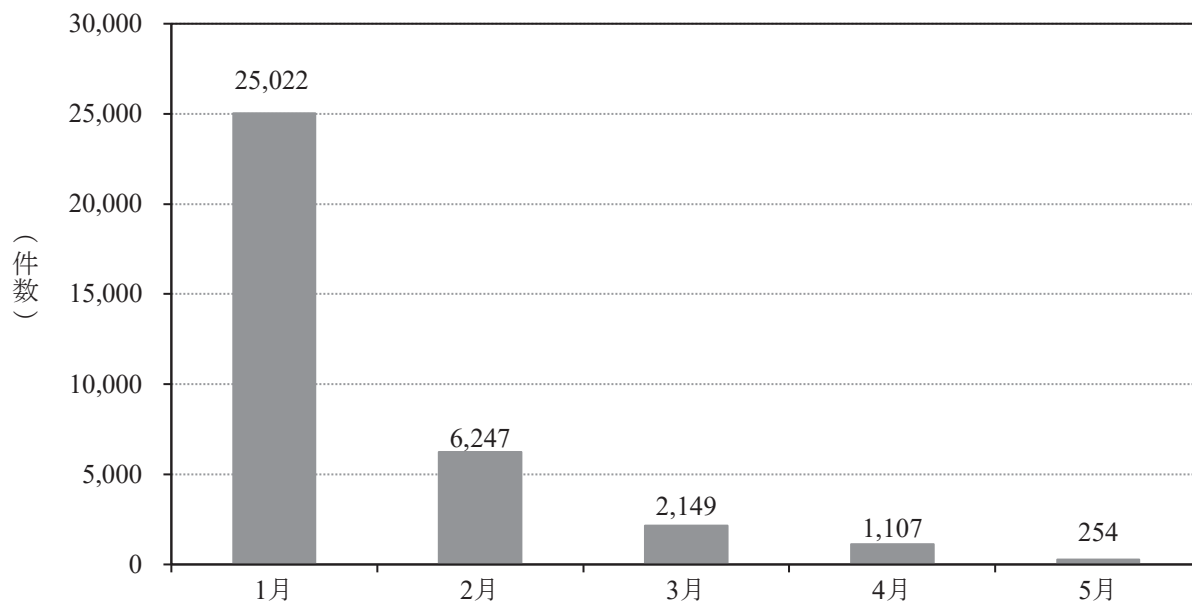
《新型コロナウイルス等感染症》

⑱ 新型コロナウイルス感染症（2023 年 1 月 1 日～5 月 7 日）

2023 年 5 月 8 日から定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ感染症法上の取扱いが変更された。

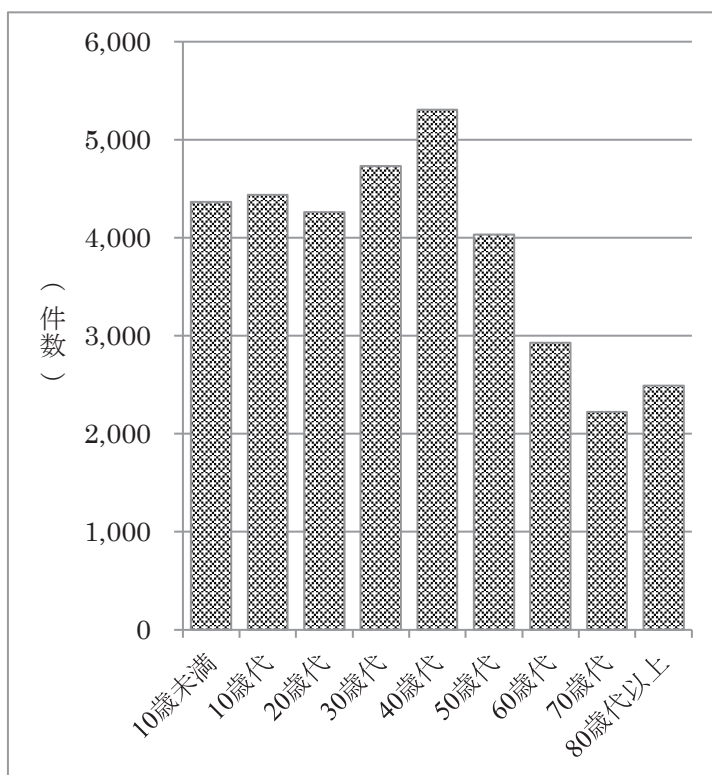
2023 年 1 月 1 日から 5 月 7 日までの届出数は 34,779 件であり、この期間中の月別届出数は 1 月 25,022 件、2 月 6,247 件、3 月 2,149 件、4 月 1,107 件、5 月 254 件であった。年齢別では、40 歳代が 5,305 件と全体の約 15%を占めた。続いて 30 歳代 4,730 件、10 歳代 4,441 件、10 歳未満 4,363 件の順に多かった。

【新型コロナウイルス感染症の月別届出数】



【年齢別届出数】

	人数	比率 (%)
10 歳未満	4,363	13
10 歳代	4,441	13
20 歳代	4,262	12
30 歳代	4,730	14
40 歳代	5,305	15
50 歳代	4,034	12
60 歳代	2,930	8
70 歳代	2,221	6
80 歳代以上	2,493	7
計	34,779	100



3. 定点把握対象感染症患者報告状況（週報）

（１）過去５年間の報告状況

疾患名	2019 年 (令和元年)	2020 年 (令和 2 年)	2021 年 (令和 3 年)	2022 年 (令和 4 年)	2023 年 (令和 5 年)
インフルエンザ	10,024	3,095	4	42	13,896
新型コロナウイルス感染症 ¹⁾					10,061
RS ウイルス感染症	1,862	140	2,912	1,214	1,591
咽頭結膜熱	563	222	242	205	1,117
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	772	475	254	109	544
感染性胃腸炎	6,192	3,365	4,397	4,006	5,193
水痘	262	192	128	70	68
手足口病	2,086	71	678	410	530
伝染性紅斑	666	115	6	4	7
突発性発しん	470	514	502	399	346
ヘルパンギーナ	486	170	411	66	1,107
流行性耳下腺炎	56	50	30	19	22
急性出血性結膜炎	3	—	—	—	2
流行性角結膜炎	117	29	21	11	26
細菌性髄膜炎	3	3	1	4	5
無菌性髄膜炎	7	4	3	6	12
マイコプラズマ肺炎	131	43	7	2	1
クラミジア肺炎	1	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	8	1	1	—	—

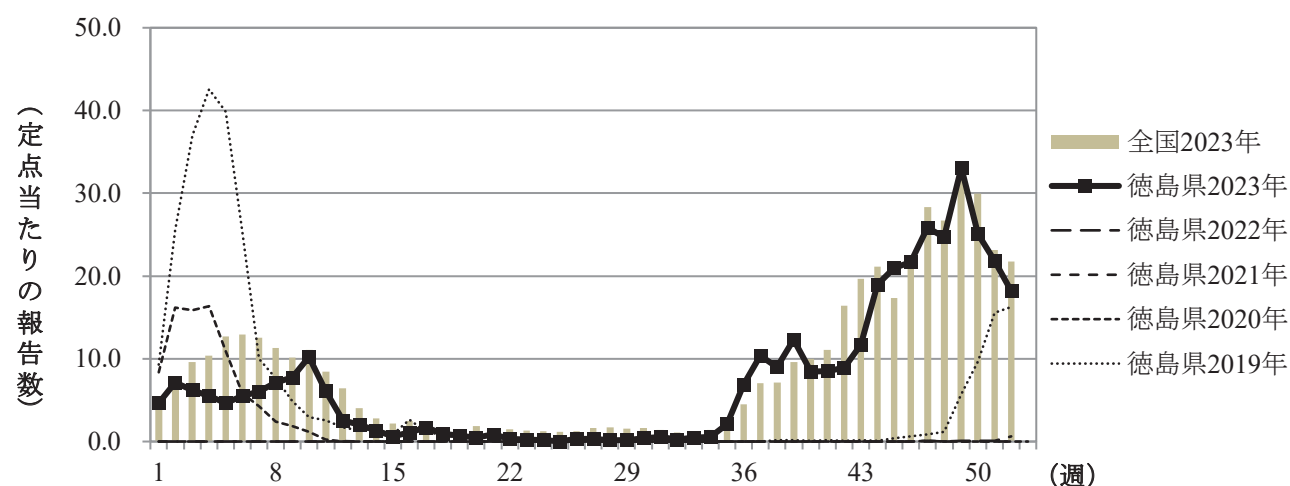
¹⁾令和 2 年 2 月 1 日より指定感染症に追加指定、令和 3 年 2 月 13 日より新型インフルエンザ等感染症に変更、令和 5 年 5 月 8 日より定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ指定された。

(2) 各疾病の報告状況

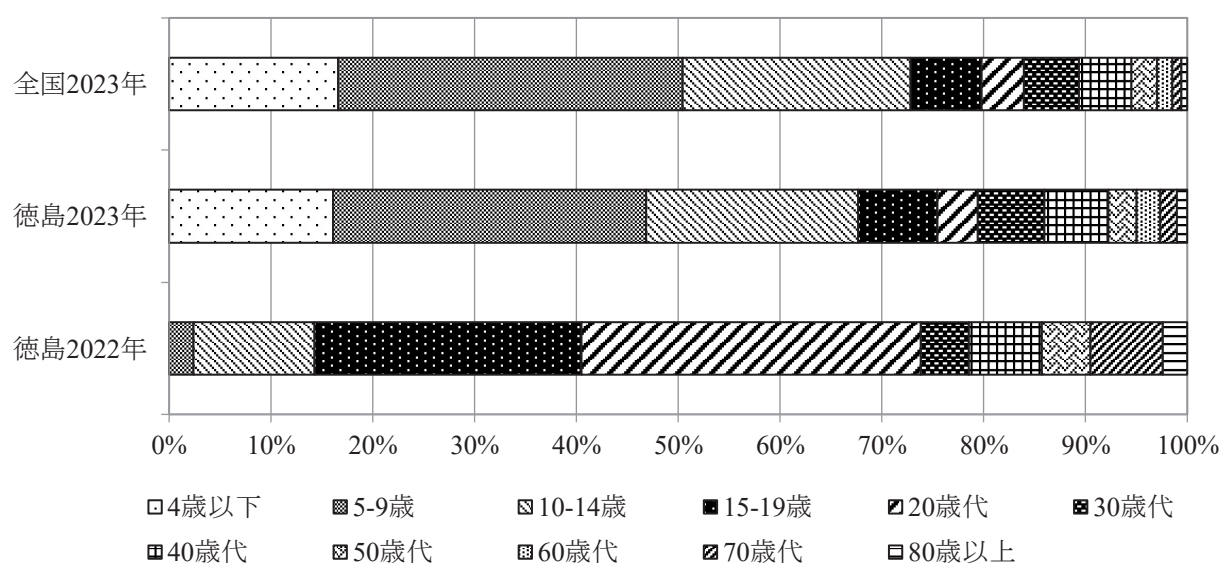
① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

年間報告数は13,896人であり、報告数が少なかった2020年（3,095人）、2021年（4人）、2022年（42人）に比べ、大きく増加し、過去10年で最高の報告数となった。2022－2023シーズンは、定点当たりの報告数が、2023年第35週に2.08人と1.0人を超えて流行期に入った。2023年第37週には、10.35人と注意報発令基準を超え、2023年第49週には、33.08人と警報発令基準を超えた。年齢層別報告数では、4歳以下16.1%、5～9歳30.7%、10～14歳20.9%、15～19歳7.8%、20歳以上24.6%であり、5～14歳の割合が高かった。

【インフルエンザの週別患者報告状況】



【インフルエンザの年齢層別報告数】

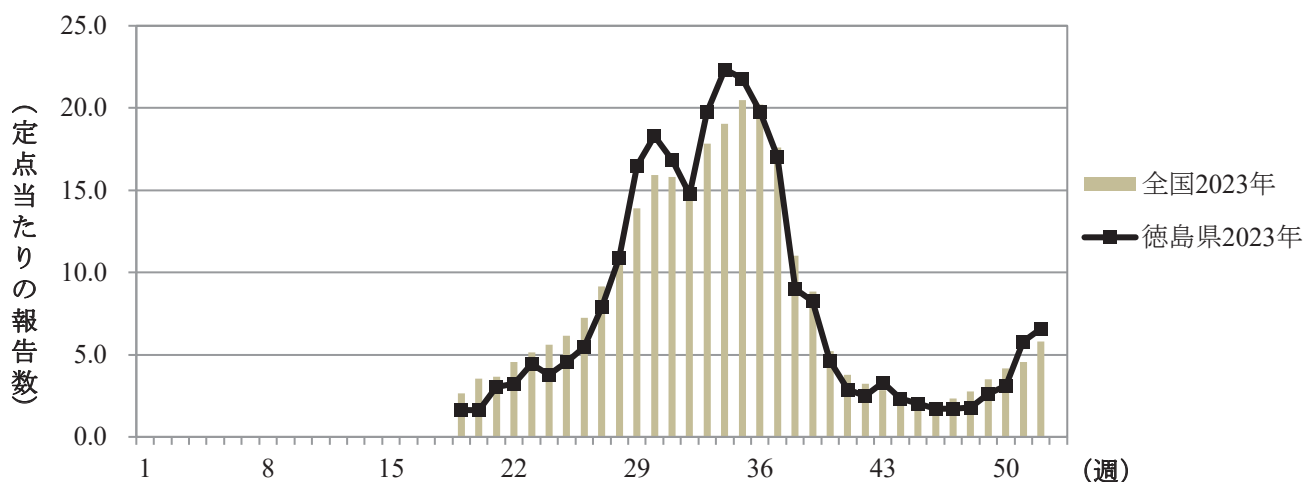


② 新型コロナウイルス感染症

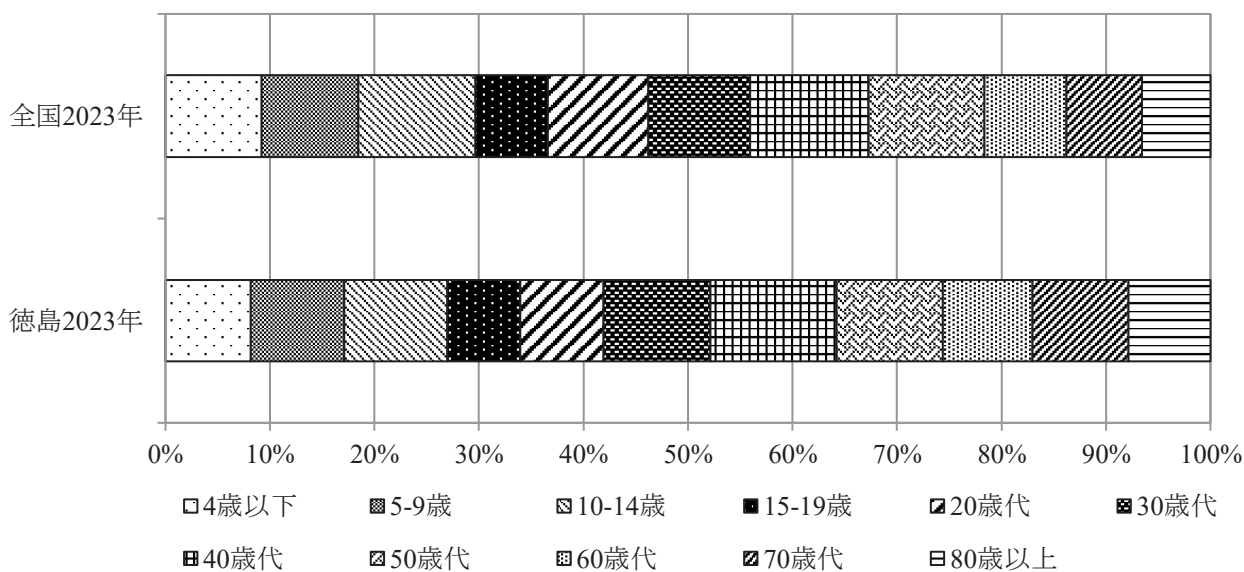
2023年5月8日から定点把握対象疾患感染症（五類感染症）に変更され、2023年第19週から対象疾患となった。年間報告数は10,061人であり、定点当たり報告数では、6月下旬（第25週）から増加し、7月上旬（第28週）には10.89人と10.0人を超え、8月下旬（第34週）でピーク22.35人を迎えたが、9月中旬（第38週）には、9.00人と10.0人を下回った。11月下旬（第47週）には、1.70人まで減少したが、その後、やや増加傾向を示している。

年齢別報告数は、4歳以下8.2%、5～9歳8.9%、10～14歳9.9%、15～19歳7.0%、20歳代8.0%、30歳代10.2%、40歳代12.1%、50歳代10.2%、60歳代8.5%、70歳代9.2%、80歳以上7.9%と、年齢別での大きな差はなかった。

【新型コロナウイルス感染症の週別患者報告状況】



【新型コロナウイルス感染症の年齢層別報告数】



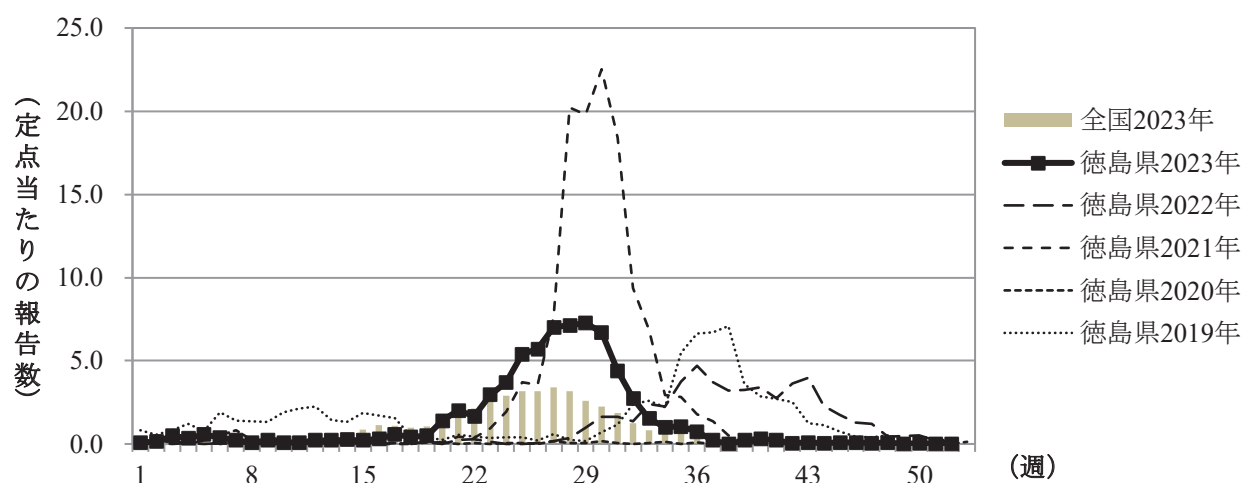
③ RS ウイルス感染症

年間報告数は1,591人と、前年（1,214人）より増加した。

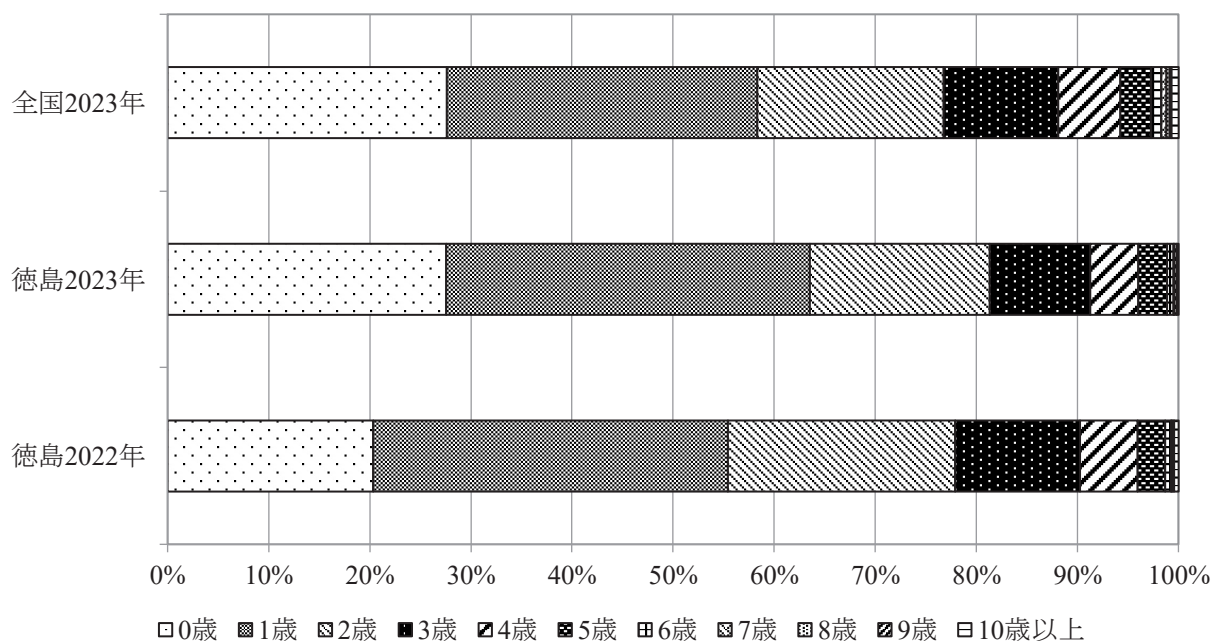
2017年以降、夏から秋にかけて流行していたが、本年は5月中旬（第20週）から増加し、7月中旬（第29週）にピーク（7.26人／定点）を迎えた。第23～36週で全国平均を上回り、この間の報告数は年間の約83%を占めた。

本疾患は、2歳までの乳幼児からの報告が多く、本年の年齢層別報告数は、0歳27.6%、1歳36.0%、2歳17.8%、3歳9.9%、4歳以上8.7%であった。

【RS ウイルス感染症の週別患者報告状況】



【RS ウイルス感染症の年齢層別報告数】



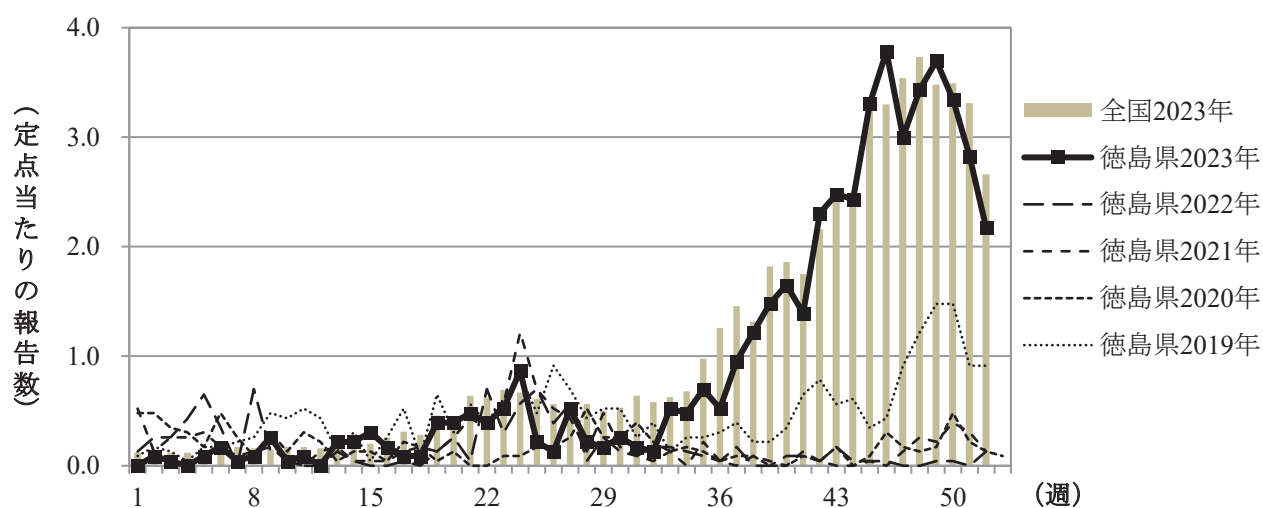
④ 咽頭結膜熱

年間報告数は1,117人と、前年（205人）を大きく上回り、過去10年間で最も多かった。

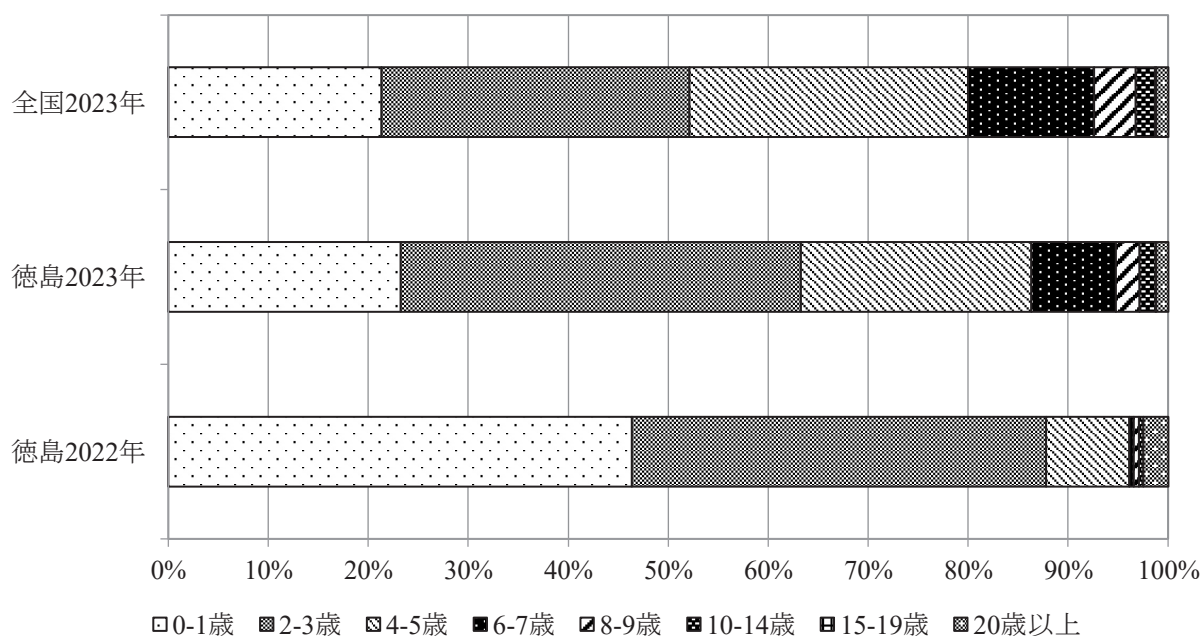
本年は9月に入り増加傾向が見られ、11月中旬（第46週）にピーク（3.78人／定点）を示した。

年齢層別報告数は、0～1歳23.3%、2～3歳40.0%、4～5歳23.0%、6～7歳8.5%、8歳以上5.2%であり、5歳以下が約86%を占めた。

【咽頭結膜熱の週別患者報告状況】



【咽頭結膜熱の年齢層別報告数】



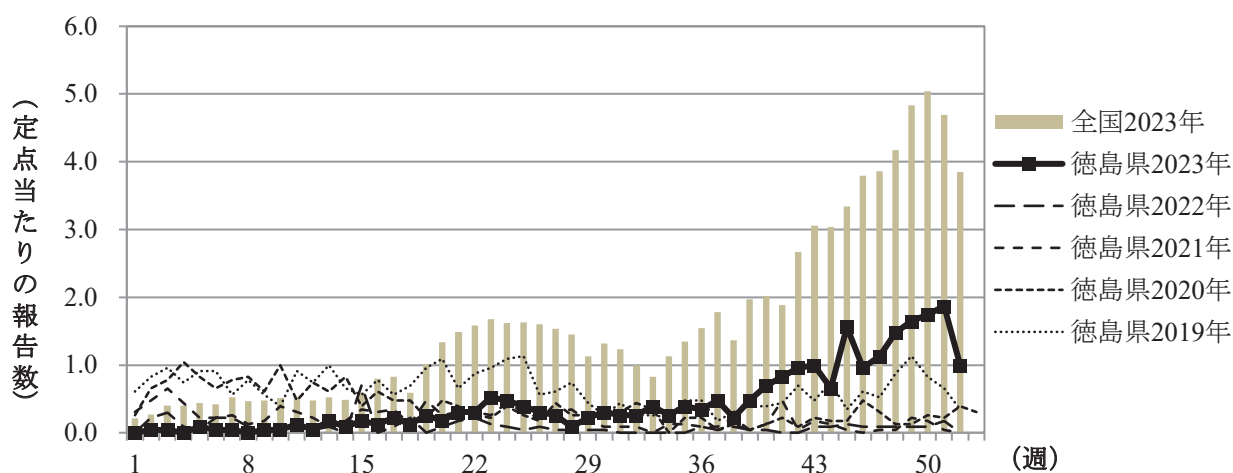
⑤ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間報告数は 544 人と、前年（109 人）より大きく増加した。

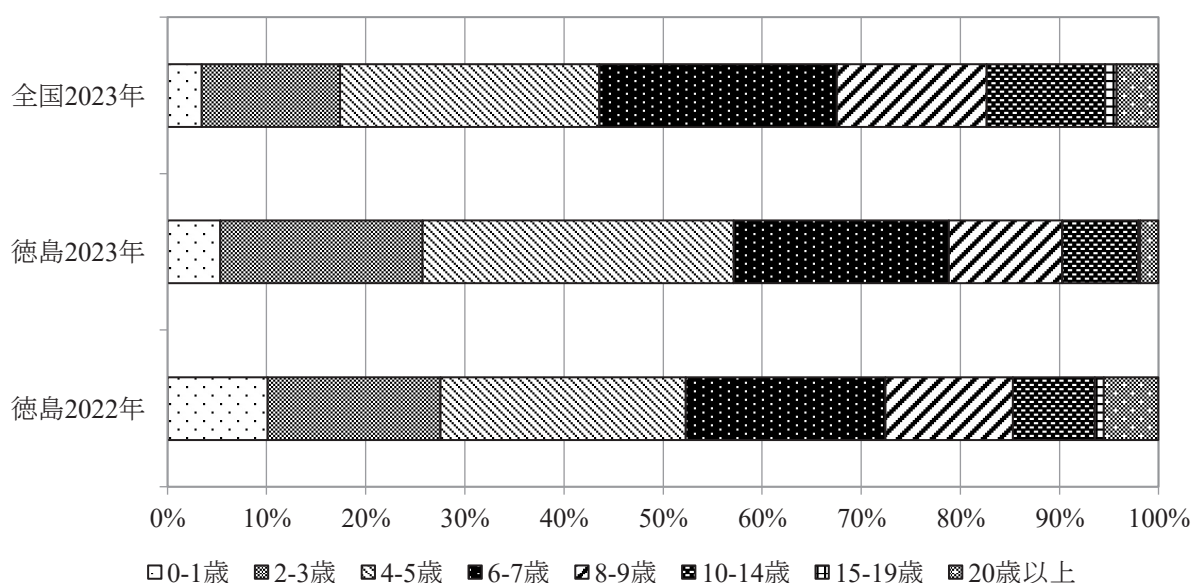
本疾患は、冬季及び春から初夏にかけて増加するとされる。本年は 10～12 月に増加傾向が見られ、12 月下旬（第 51 週）にピーク（1.87 人／定点）を示した。

年齢層別報告数は、0～1 歳 5.3%、2～3 歳 20.4%、4～5 歳 31.4%、6～7 歳 21.7%、8～9 歳 11.4%、10～14 歳 7.7%、15 歳以上 2.0%と、2～7 歳が全体の約 74%を占めた。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別患者報告状況】



【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢層別報告数】



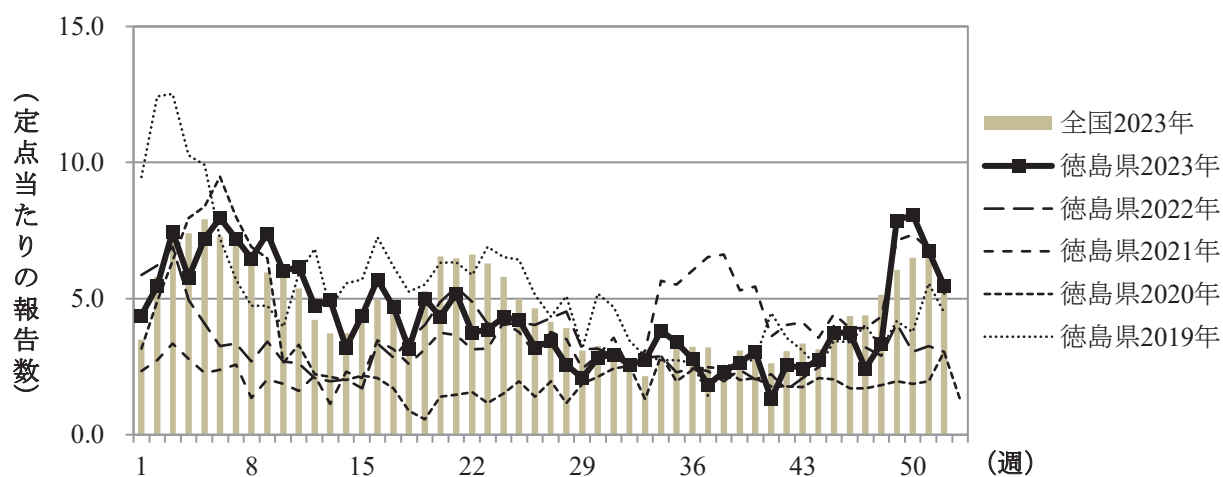
⑥ 感染性胃腸炎

年間報告数は5,193人と、前年（4,006人）より増加した。

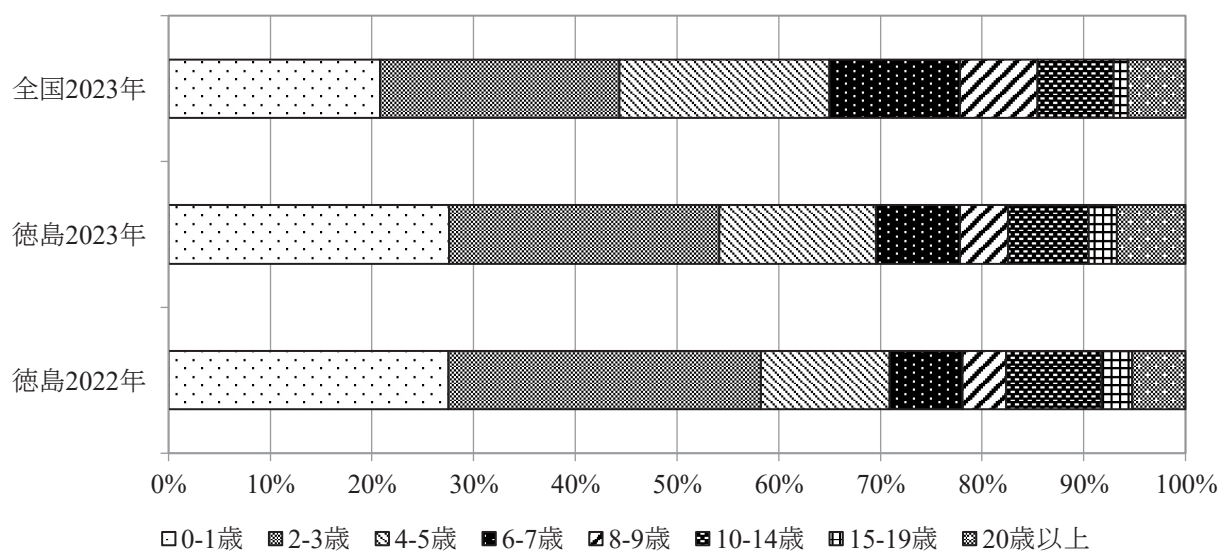
本疾患の流行パターンは、初冬から増加し12～1月頃に一度ピークが見られた後、春にもう一度なだらかなピークができ、その後初夏まで続くことが多い。本年の前期流行は、前年から引き続いて年初（第1週）から増加傾向を示し、2月上旬（第6週）でピーク（7.96人／定点）が見られ、12月から再び増加傾向を示し、12月中旬（第50週）でピーク（8.09人／定点）が見られた。

年齢層別報告数は、0～1歳27.6%、2～3歳26.6%、4～5歳15.4%、6～7歳8.2%、8～9歳4.8%、10～14歳7.9%、15歳以上9.5%と5歳以下の乳幼児が全体の約70%を占めた。

【感染性胃腸炎の週別患者報告状況】



【感染性胃腸炎の年齢層別報告数】



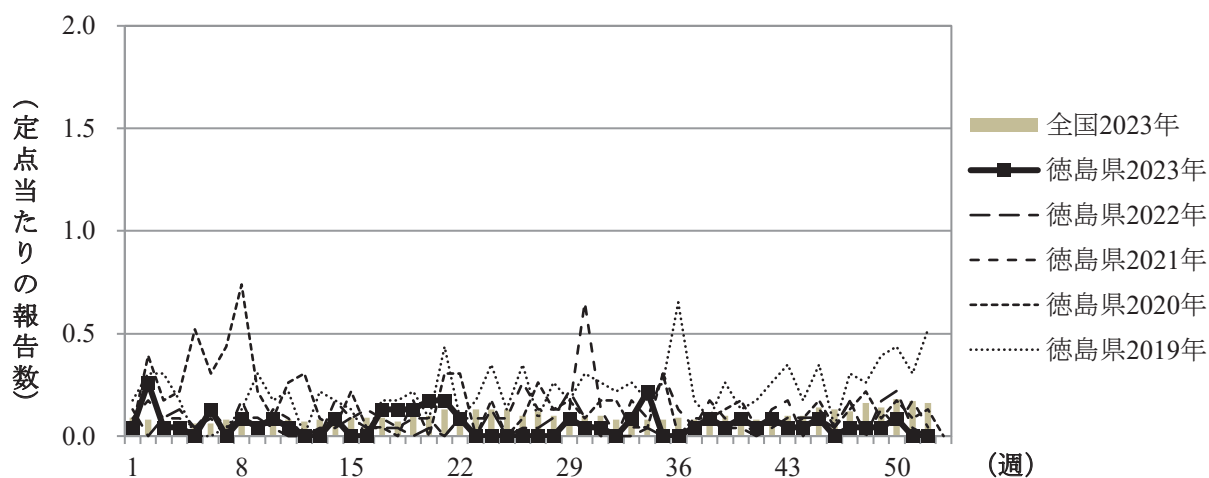
⑦ 水痘

年間報告数は68人と、2017年（352人）以降、減少傾向が続いており、過去10年間で最も少ない報告数であった。

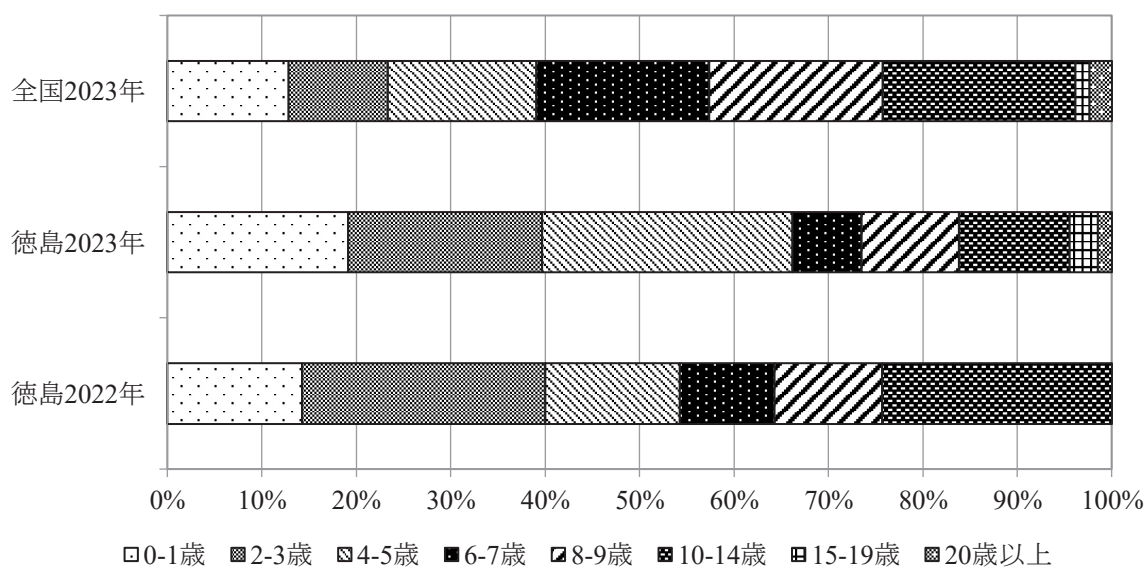
本疾患は年間を通して発生するが、主に冬から春にかけて流行するとされる。本年は大きなピークは見られず、低水準（0.26人／定点以下）のまま推移した。

年齢層別報告数は、0～1歳19.1%、2～3歳20.6%、4～5歳26.5%、6～7歳7.4%、8～9歳10.3%、10歳以上16.2%と10歳未満が全体の約84%を占めた。

【水痘の週別患者報告状況】



【水痘の年齢層別報告数】



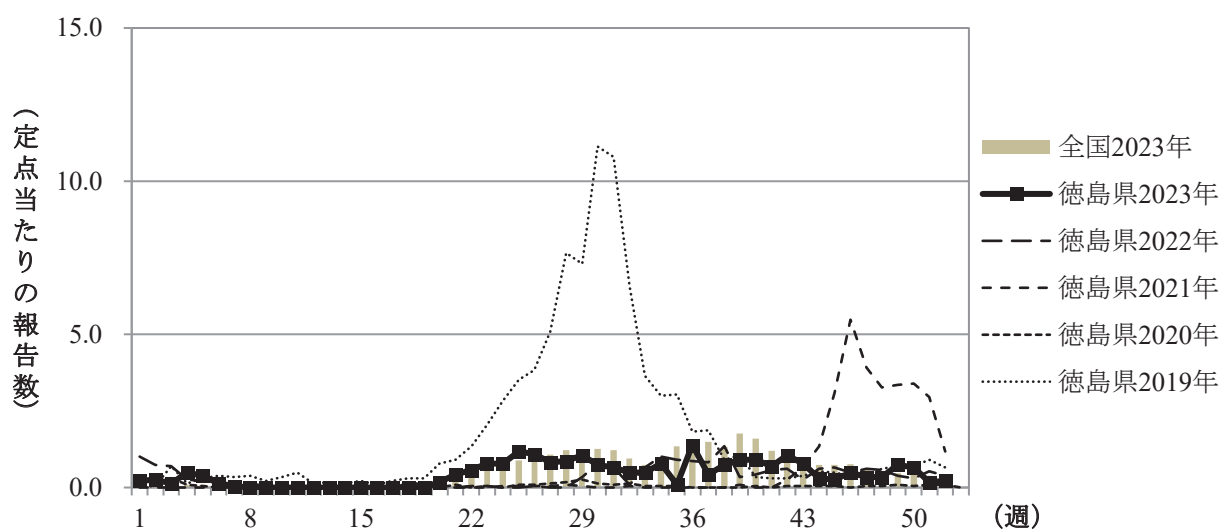
⑧ 手足口病

年間報告数は530人と、前年（410人）よりやや増加した。

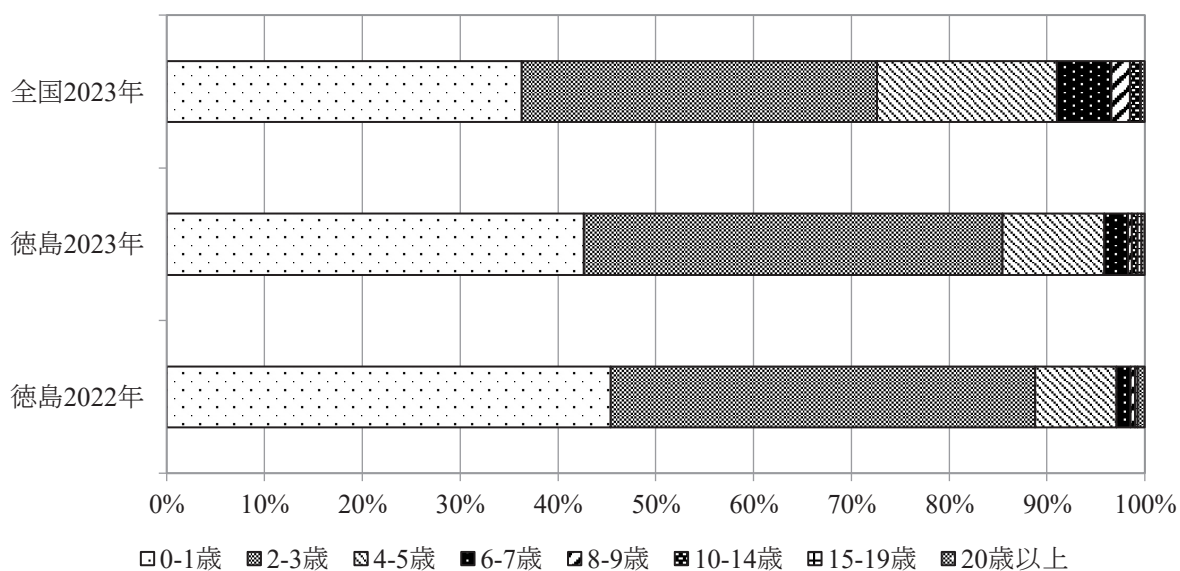
本疾患は夏期に流行することが多い感染症であるが、本年は、年間を通じて低水準のまま推移し、大きなピークはなかった。

年齢層別報告数は、0～1歳42.6%、2～3歳42.8%、4～5歳10.4%、6～7歳2.5%、8歳以上1.7%であり、5歳以下が全体の約96%を占めた。

【手足口病の週別患者報告状況】



【手足口病の年齢層別報告数】

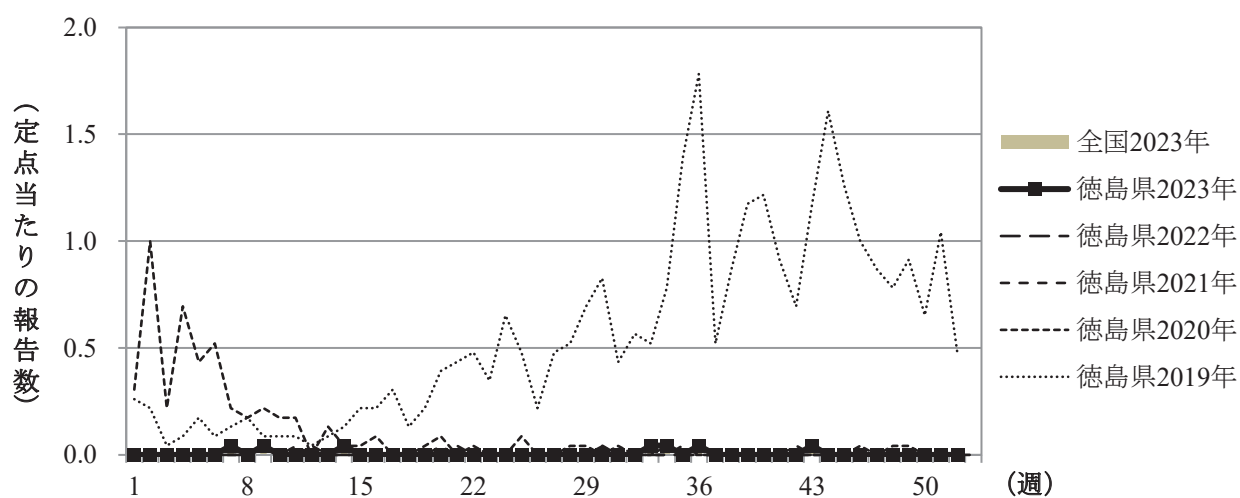


⑨ 伝染性紅斑

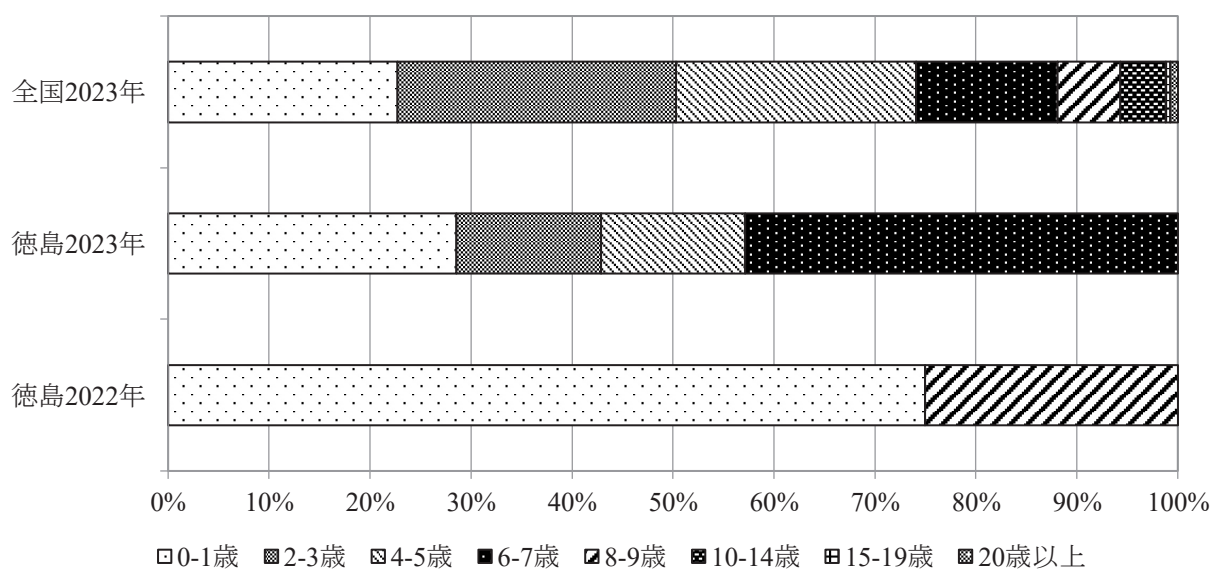
年間報告数は7人と、調査開始以降、最も少なかった前年（4人）と同程度であり、年間を通じて低水準（0.04人／定点以下）で推移した。

年齢層別報告数は、0～1歳 28.6%、2～3歳 14.3%、4～5歳 14.3%、6～7歳 42.9%と、全て7歳以下の報告であった。

【伝染性紅斑の週別患者報告状況】



【伝染性紅斑の年齢層別報告数】



⑩ 突発性発しん

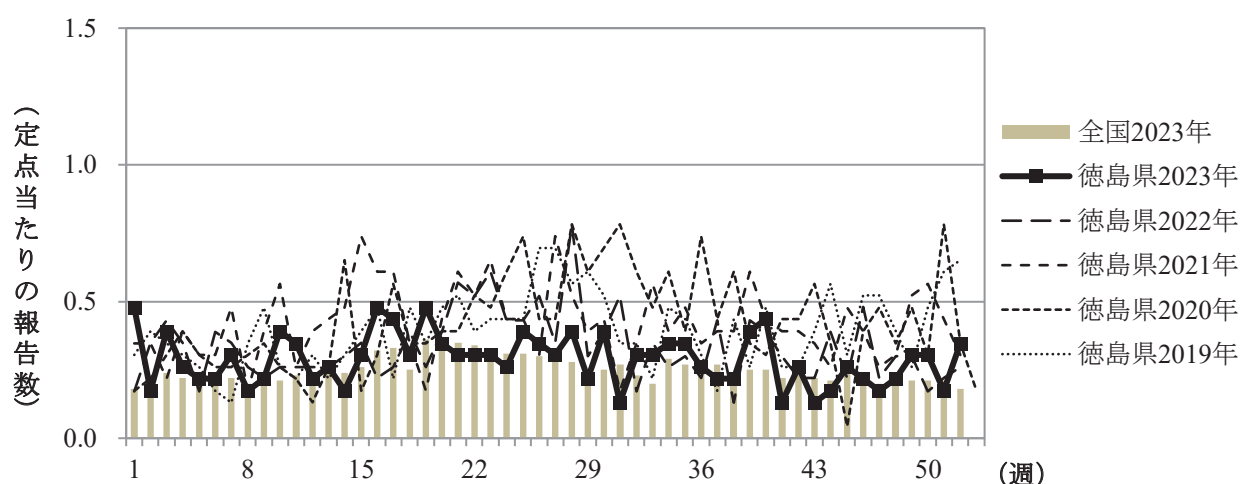
年間報告数は346人と、調査開始以降、最も少なかった。

本疾患は、季節性も年次推移も認められず、年間を通じてほぼ一定の範囲内で推移するとされ、6か月～1歳の小児に好発し、ほとんどの子どもが3歳までに感染するといわれている。

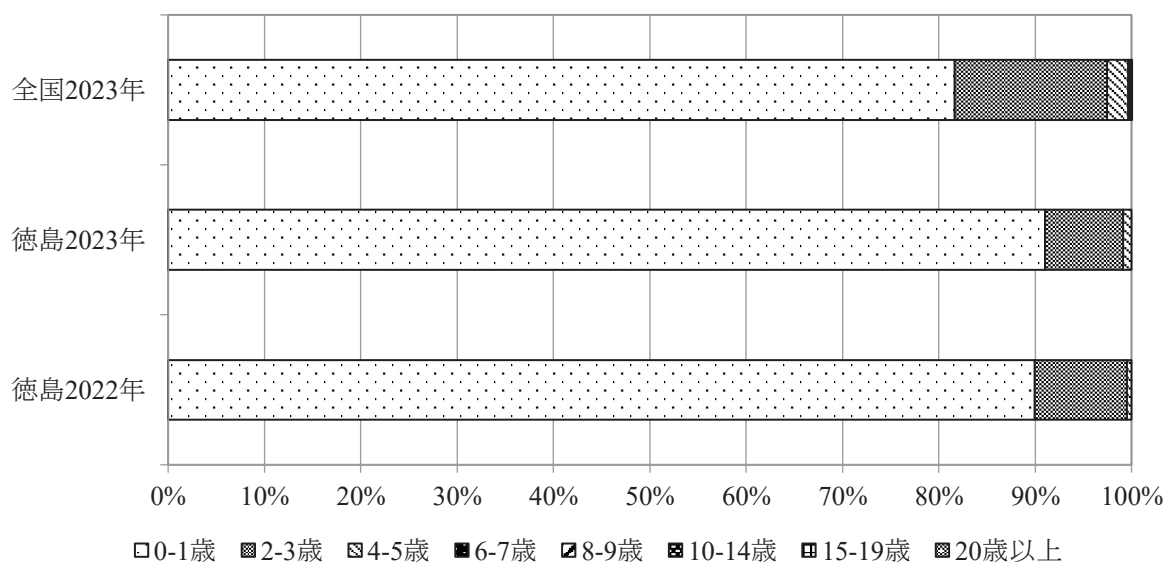
本年もピークは示さず、大きな季節的変動も見られないまま、一定の範囲内（0.13～0.48人／定点）で推移した。

年齢層別報告数は0～1歳91.0%、2～3歳8.1%、4～5歳0.9%と、1歳以下が大半を占めた。

【突発性発しんの週別患者報告状況】



【突発性発しんの年齢層別報告数】



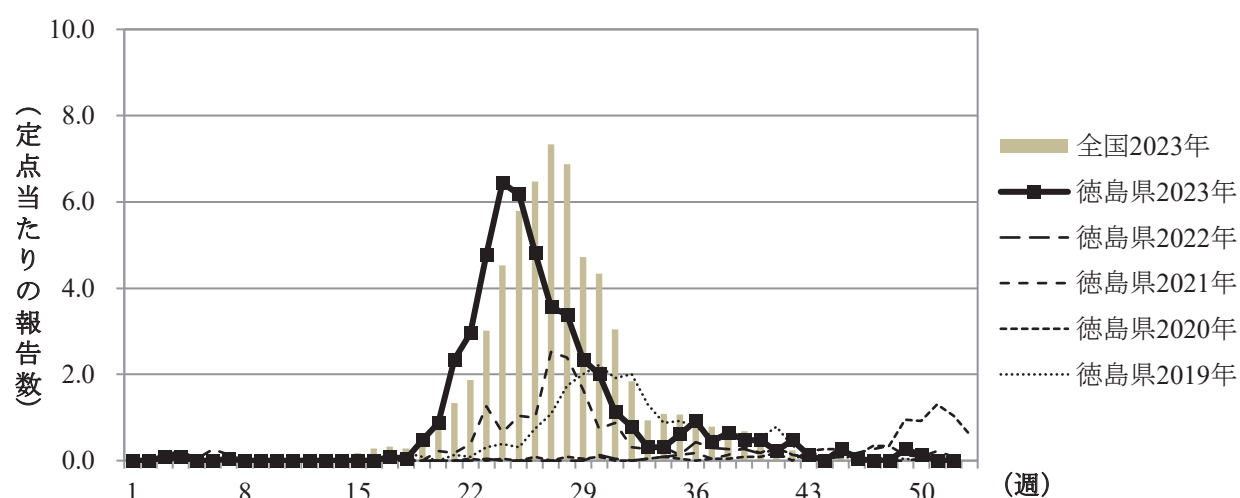
⑪ ヘルパンギーナ

年間報告数は1,107人と、前年（66人）を大きく上回って、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の水準に戻り、過去10年間で最も多い報告数であった。

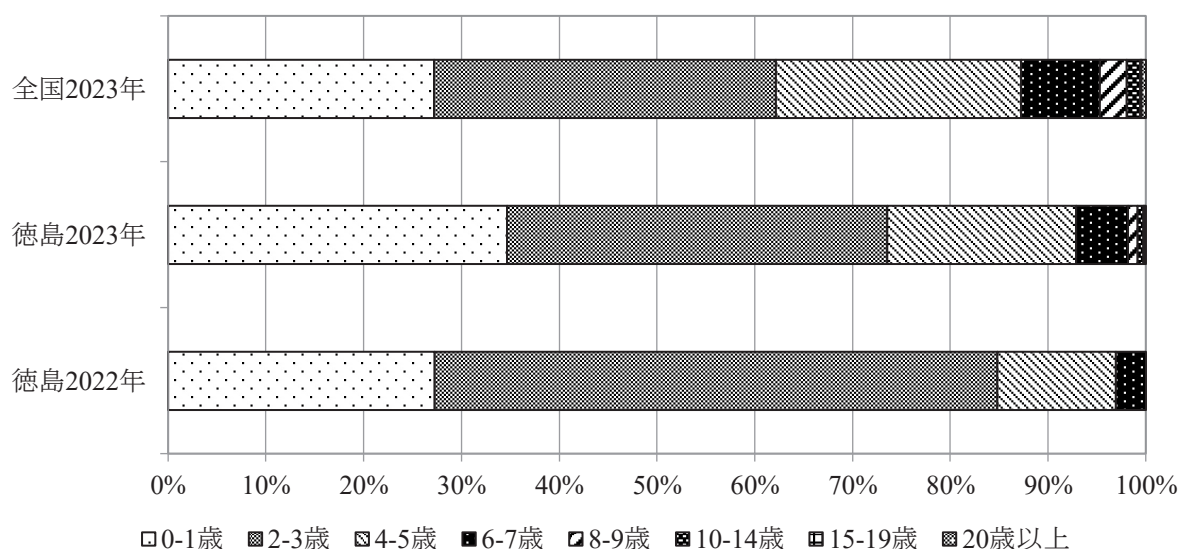
本疾患は、手足口病とともに主に乳幼児の間で流行する夏期の代表的な感染症である。本年は、5月下旬（第21週）から報告数が増加し始め、6月中旬（第24週）にピーク（6.43人／定点）を示した。その後、減少傾向となり、8月上旬（第32週）には、1.0人未満となり、流行を終えた。

年齢層別報告数では、0～1歳 34.7%、2～3歳 38.8%、4～5歳 19.3%、6～7歳 5.3%、8歳以上 1.8%であり、5歳以下の乳幼児が約93%を占めた。

【ヘルパンギーナの週別患者報告状況】



【ヘルパンギーナの年齢層別報告数】



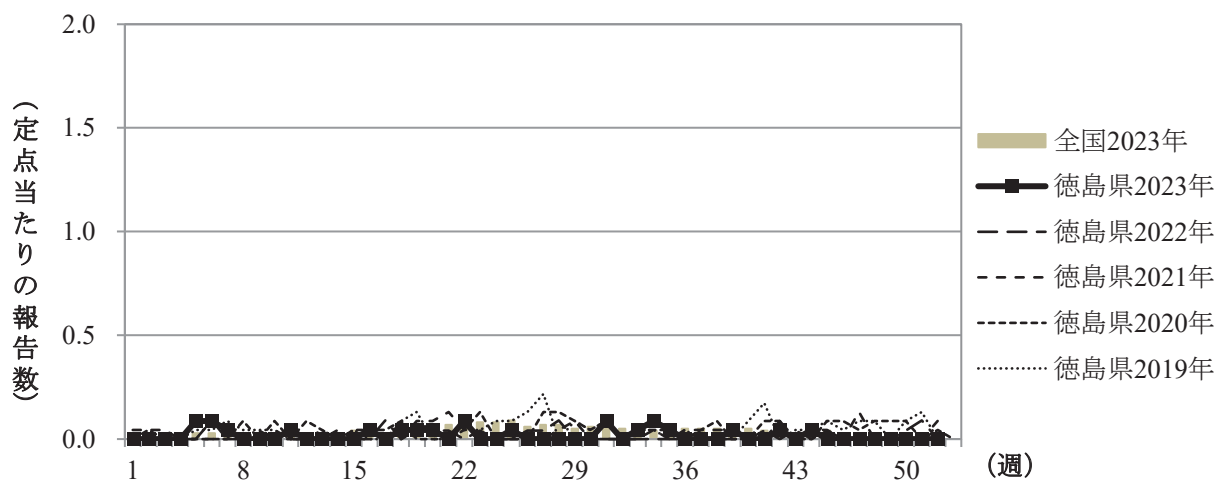
⑫ 流行性耳下腺炎

年間報告数は22人と、過去10年間で最も少なかった前年（19人）と同程度であった。

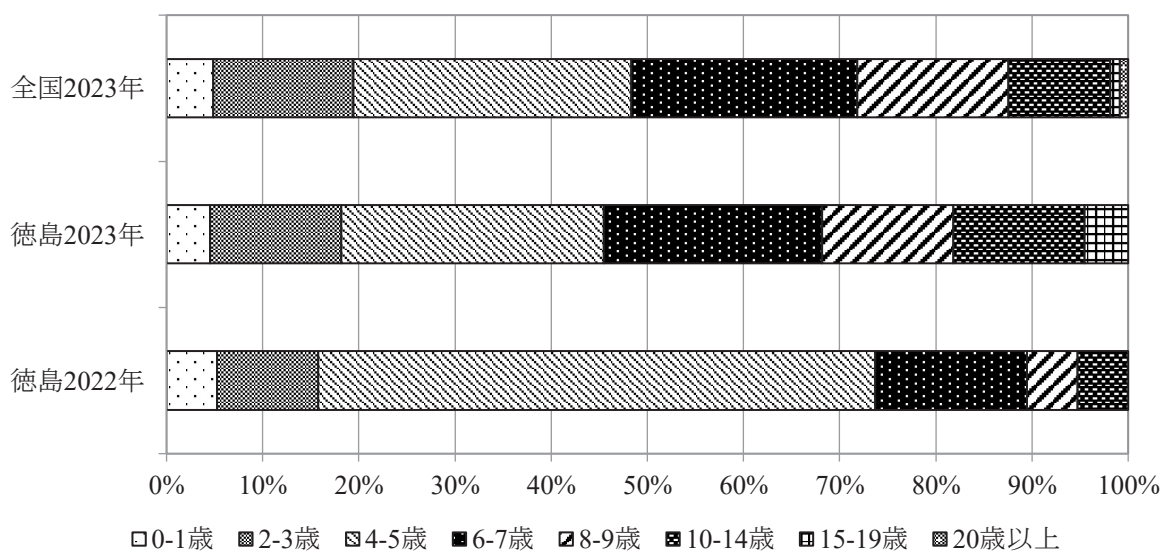
過去10年間では2016～2017年に大きな流行があった。

年齢層別報告数は、0～1歳4.5%、2～3歳13.6%、4～5歳27.3%、6～7歳22.7%、8～9歳13.6%、10歳以上18.2%であり、4～7歳が半数を占めた。

【流行性耳下腺炎の週別患者報告状況】



【流行性耳下腺炎の年齢層別報告数】

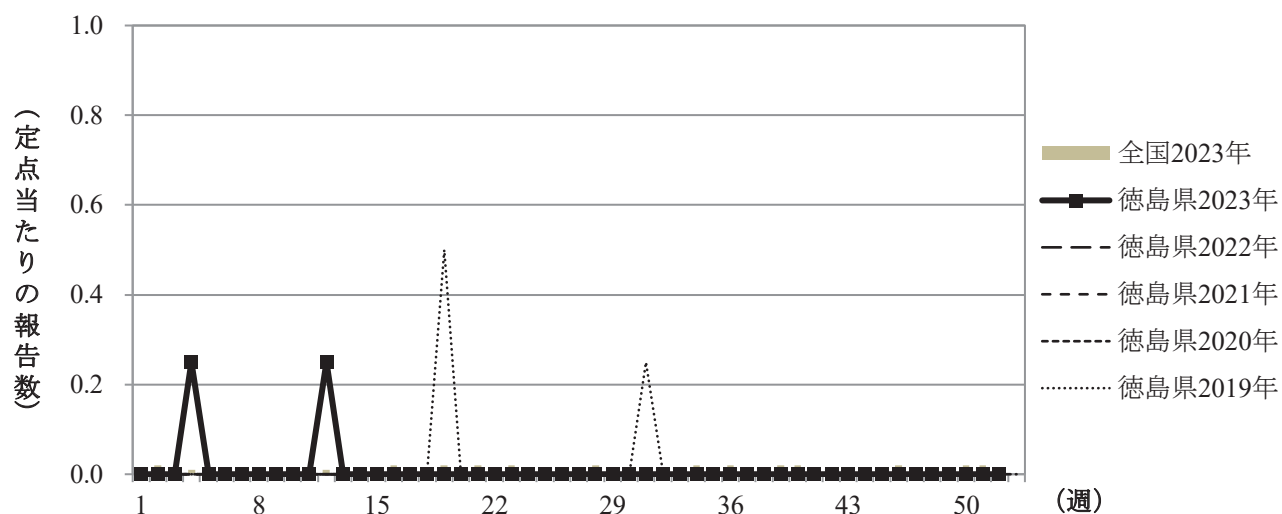


⑬ 急性出血性結膜炎

年間報告数は2人と、過去5年間では2019年（3人）以降は報告が無く、4年ぶりの報告であった。
本疾患は局地的に流行することがあるが、流行のない年は季節性も見られず、報告数は低いまま微増微減を繰り返すとされている。

年齢層別報告数は、2人とも20歳代であった。

【急性出血性結膜炎の週別患者報告状況】

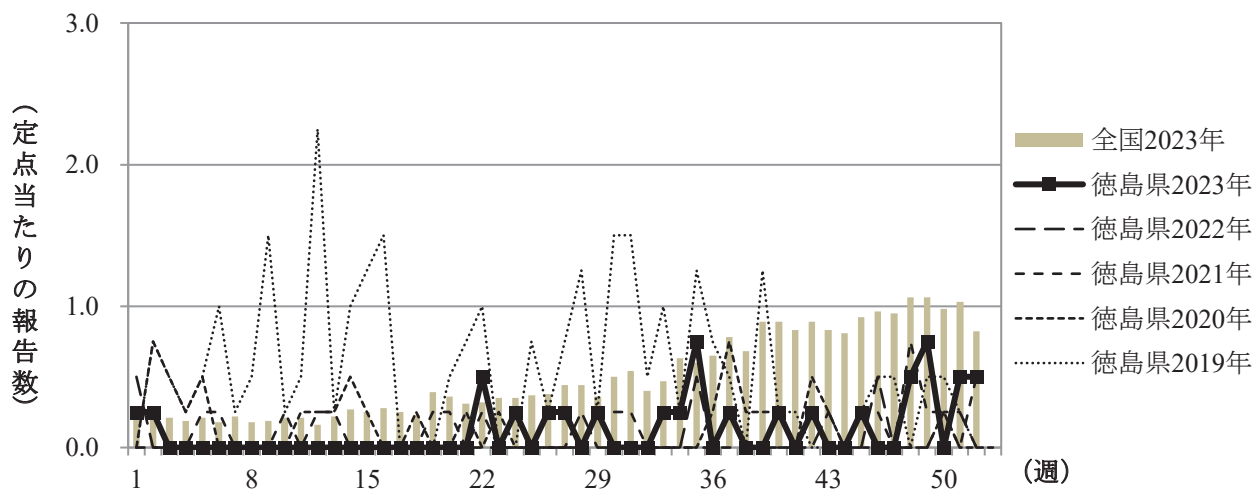


⑭ 流行性角結膜炎

年間報告数は26人と前年（11人）より増加した。県内では2019年に年間117人報告されたが、その後は低値で推移している。

年齢層別報告数は、20歳未満15.4%、20歳代7.7%、30歳代34.6%、40歳代23.1%、50歳代7.7%、60歳以上11.5%と、30～40歳代の年齢層が多かった。

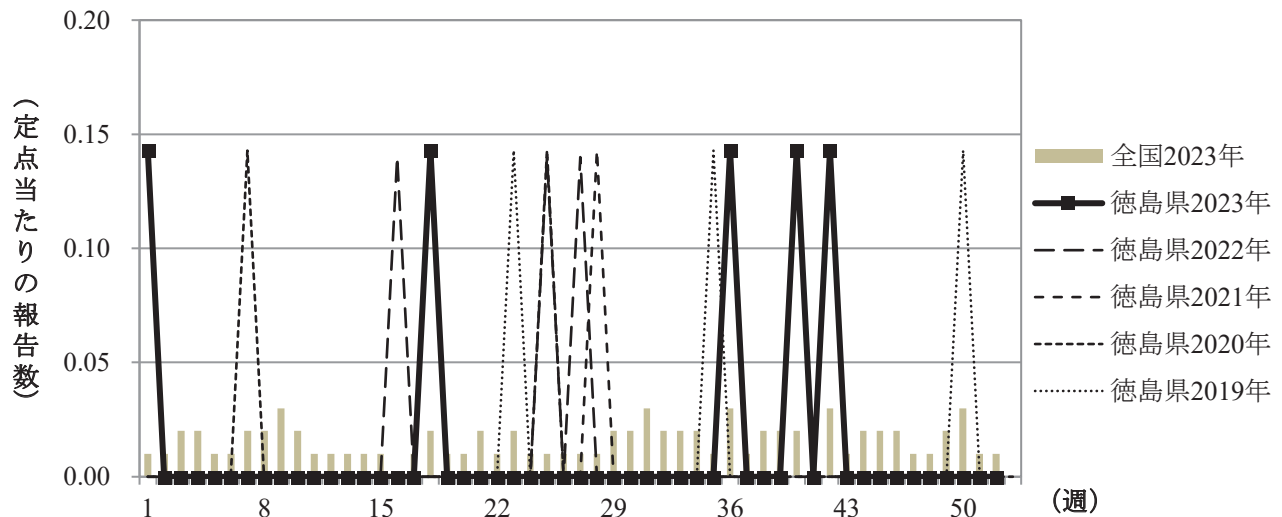
【流行性角結膜炎の週別患者報告状況】



⑮ 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）

年間報告数は5人で、年齢層別報告は、70歳代1人、80歳代2人、90歳代2人であった。前年は4人で、過去5年間では、毎年1～5人で推移している。

【細菌性髄膜炎の週別患者報告状況】

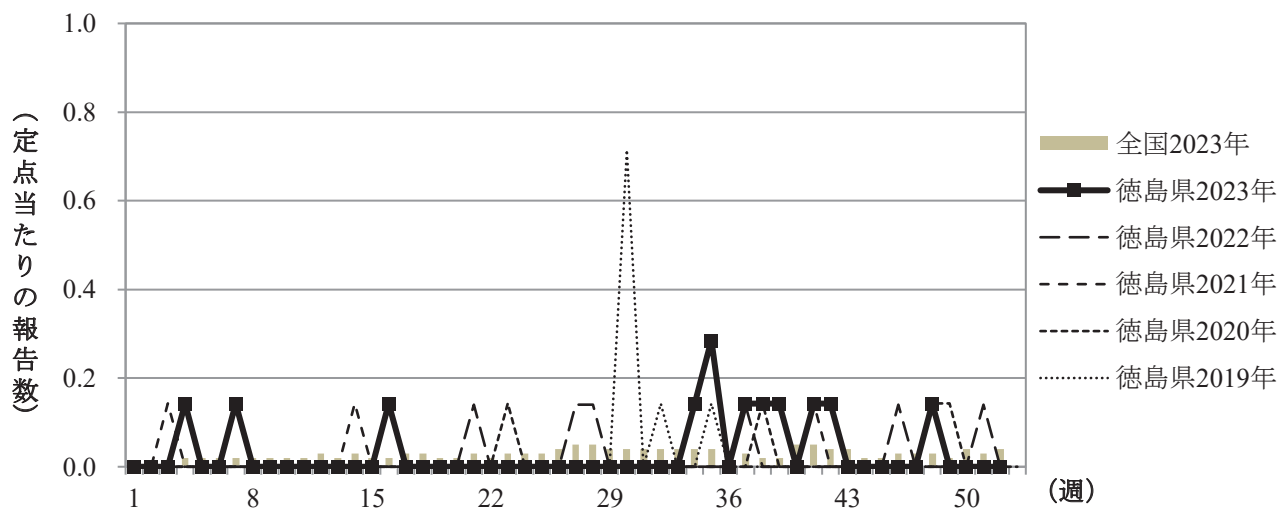


⑯ 無菌性髄膜炎

年間報告数は12人（前年6人）で、過去10年間では、最も多かった。

年齢層別報告数は10歳未満4人、20歳代4人、30歳代、50歳代、60歳代、80歳代がそれぞれ1人ずつ報告された。

【無菌性髄膜炎の週別患者報告状況】

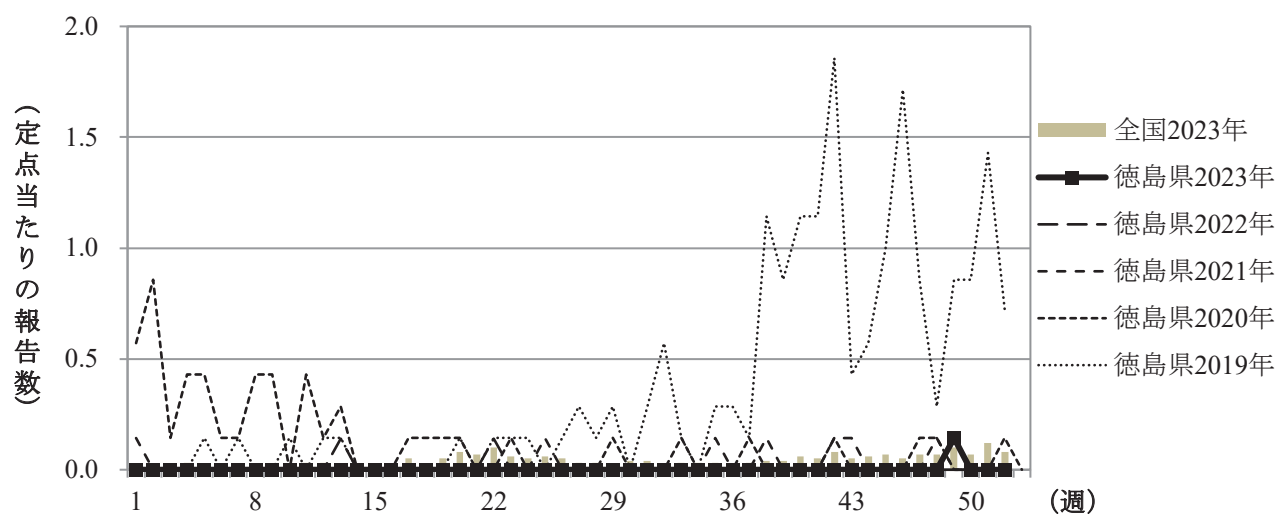


⑰ マイコプラズマ肺炎

年間報告数は1人と、前年（2人）より減少した。本疾患は、年間を通して発生するが、秋から春にかけてやや多くなるとされる。2019年から2020年に流行が見られたが、2021年以降は目立ったピークはなく、低水準（0.14人／定点以下）で推移している。

年齢層別報告数は、10歳代1人であった。

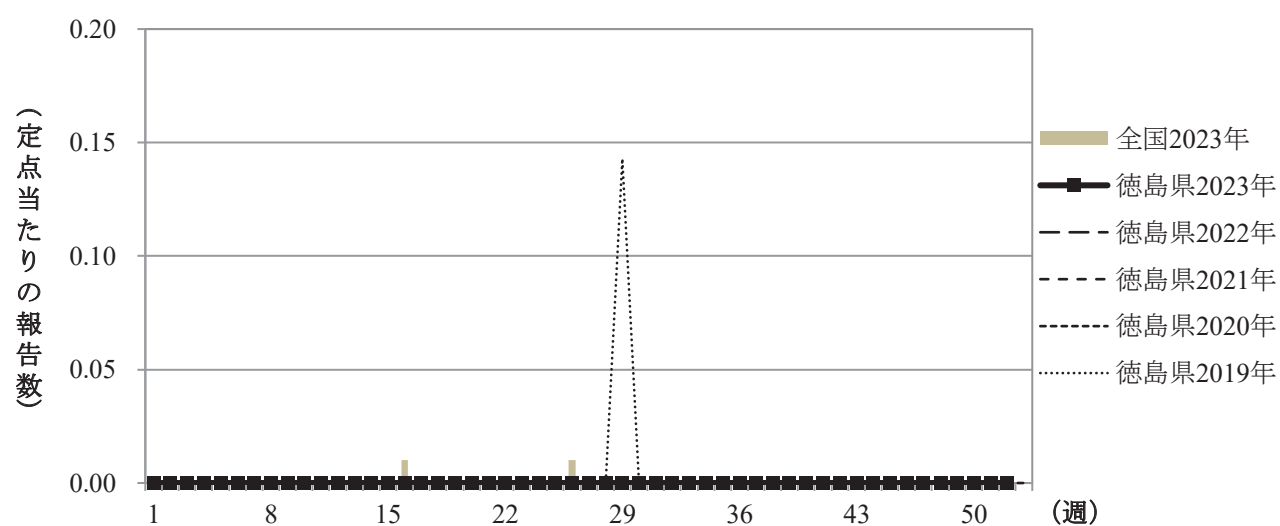
【マイコプラズマ肺炎の週別患者報告状況】



⑱ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

本年は報告がなかった。過去5年間では、2019年（1人）以降、報告はない。

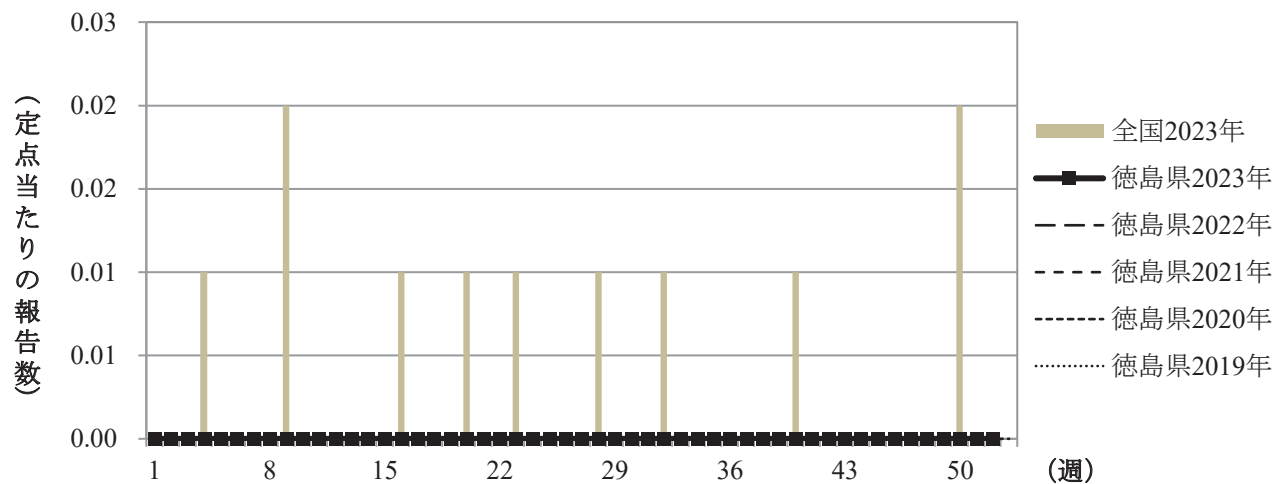
【クラミジア肺炎の週別患者報告状況】



⑭ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

前年に引き続き、本年も報告はなかった。過去5年間では2019年の8人が最も多かった。

【感染性胃腸炎（ロタウイルス）の週別患者報告状況】



4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

疾患名	2019 年 (令和元年)	2020 年 (令和 2 年)	2021 年 (令和 3 年)	2022 年 (令和 4 年)	2023 年 (令和 5 年)
性器クラミジア感染症	284	255	274	260	286
性器ヘルペスウイルス感染症	257	178	177	117	147
尖圭コンジローマ	79	75	65	60	68
淋菌感染症	59	47	55	60	42
性感染症報告数 小計	679	555	571	497	543

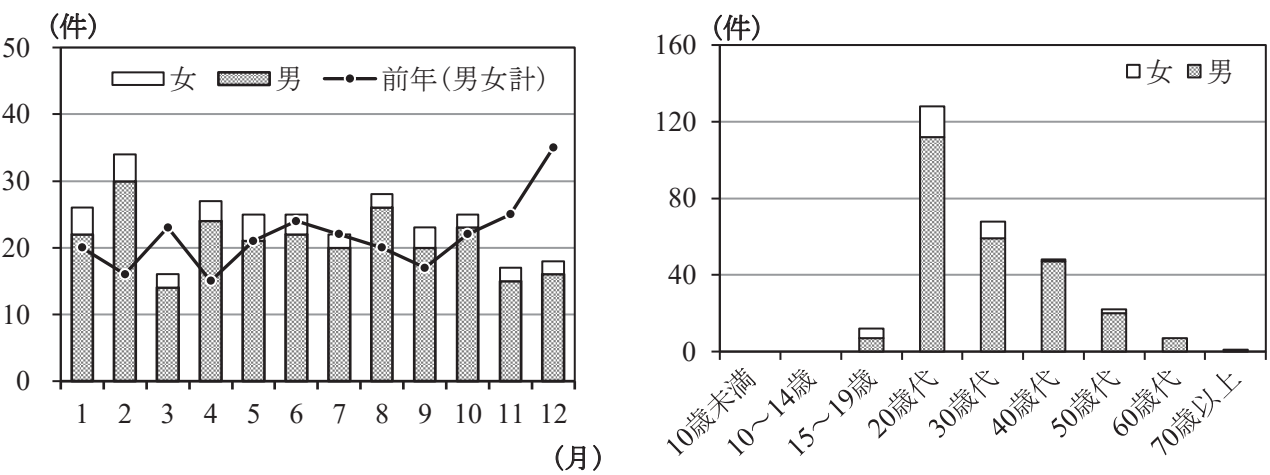
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	276	269	209	252	253
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	1	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	3	2	0	1	1
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	282	272	209	253	254

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は 543 人で、前年（497 人）より増加した。性別では、男性 371 人（前年 346 人）、女性 172 人（前年 151 人）と、前年と比べ男性・女性ともに増加した。疾患別では、性器クラミジア感染症（52.7%）が約半数を占め、次いで性器ヘルペスウイルス感染症（27.1%）、尖圭コンジローマ（12.5%）、淋菌感染症（7.7%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

【性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】



年間報告数は 286 人と、前年（260 人）より増加した。過去 5 年間の年間報告数は約 260～280 人で推移している。

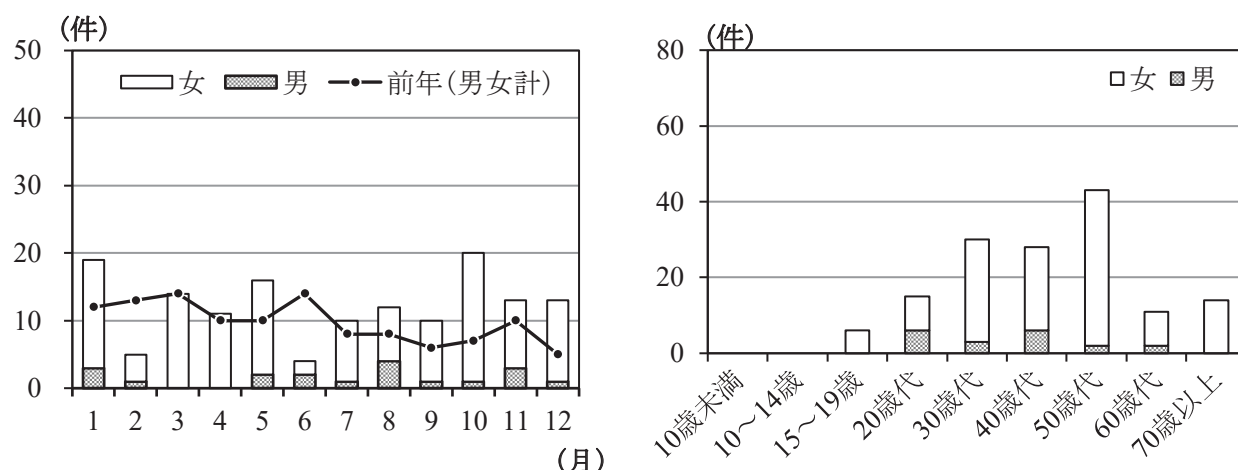
本疾患はわが国で最も多い性感染症である。性活動に活発な若年層に多いが、女性は感染しても自覚症状に乏しいため、診断治療に至らないことが多いとされている。

月別報告数では季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。性別では、男性が 253 人と、前年（223 人）より増加し、全体の約 88%を占めた。女性は 33 人と、前年（37 人）よりやや減少した。

年齢層別報告数では、10 歳代 4.2%、20 歳代 44.8%、30 歳代 23.8%、40 歳代 16.8%、50 歳以上 10.5%と、20～30 歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

【性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】

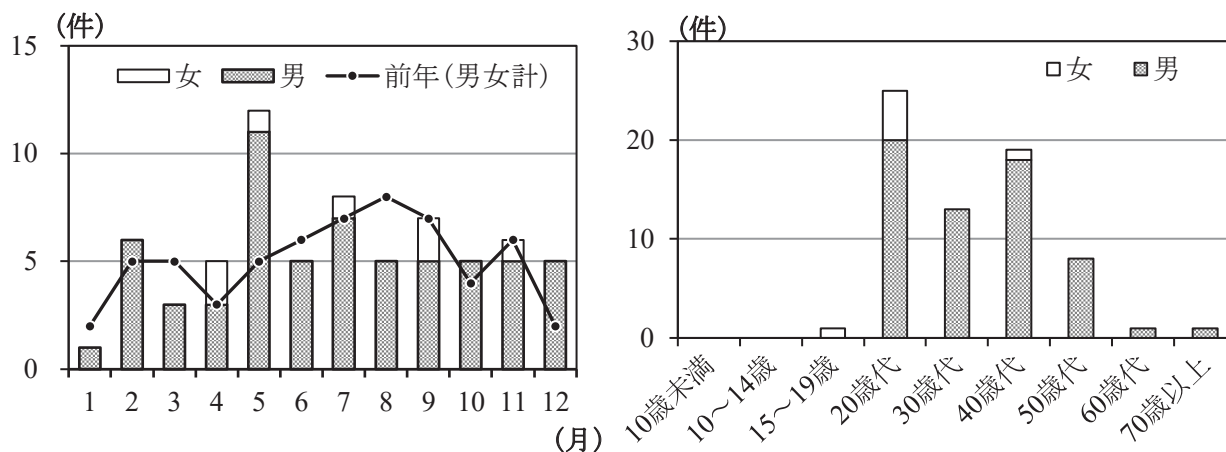


年間報告数は 147 人と、前年（117 人）より増加した。月別報告数推移でも、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。性別では、男性 19 人（前年 23 人）、女性 128 人（前年 94 人）と、男性は前年より減少し、女性は増加した。また性感染症全体では男性の報告数が多いが、本疾患は女性が約 87%を占めており、他の疾患に比べ女性の割合が高いのが特徴である。

年齢層別報告数は、10 歳代 4.1%、20 歳代 10.2%、30 歳代 20.4%、40 歳代 19.1%、50 歳代 29.3%、60 歳代 7.5%、70 歳以上 9.5%と、30～50 歳代を中心に、幅広い年齢層で発生した。また、60 歳以上からの報告数が他の性感染症と比較して多い傾向が認められたが、本疾患の原因となる単純ヘルペスウイルスは一度感染すると神経節に潜伏し、長年にわたって再発を繰り返すため、再燃の可能性も考えられる。

③ 尖圭コンジローマ

【尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢層別患者報告数】

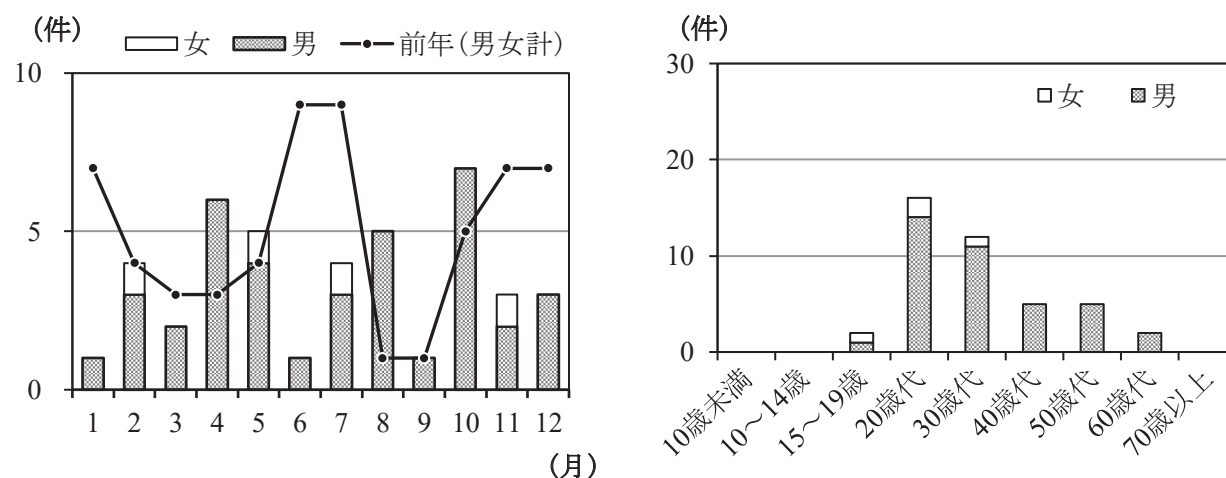


年間報告数は68人と、前年（60人）より増加した。性別では、男性が61人と、前年（43人）より増加し、全体の約90%を占めた。女性は7人と、前年（17人）より減少した。

患者の大部分は性活動の活発な年代であり、年齢層別報告数は、10歳代 1.5%、20歳代 36.8%、30歳代 19.1%、40歳代 27.9%、50歳代 11.8%、60歳以上 2.9%と、20～40歳代からの報告が多かった。

④ 淋菌感染症

【淋菌感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】



年間報告数は42人と、前年（60人）より減少した。性別では、男性38人（前年57人）、女性4人（前年3人）と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約90%を占めた。

年齢層別報告数は、10歳代 4.8%、20歳代 38.1%、30歳代 28.6%、40歳代 11.9%、50歳代以上 16.7%で、20～30歳代からの報告が多かった。

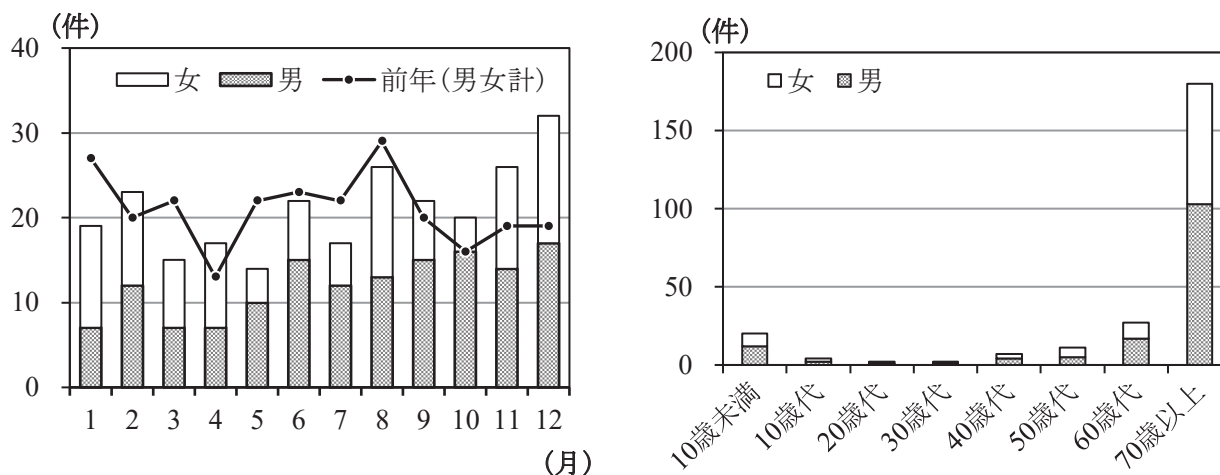
淋菌感染症の報告数は、女性が男性より極端に少数であることについて、女性の自覚症状が乏しく受診の機会が少ないことが要因の一つと考えられる。淋菌の感染により HIV ウイルスの感染が容易になるとの研究報告もあり、今後も動向を注視すべき疾患である。

(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は254人で、前年（253人）と同程度であった。疾患別の報告数においては、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が99.6%を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】



年間報告数は253人であり、前年（252人）と同程度であった。性別では、男性145人（前年148人）、女性108人（前年104人）と、男性からの報告が多かった。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。

年齢層別報告数は、10歳未満7.9%、10歳代1.6%、20歳代0.8%、30歳代0.8%、40歳代2.8%、50歳代4.4%、60歳代10.7%、70歳以上71.2%と、70歳以上からの報告が多かった。

② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

前年に引き続き、本年も報告はなかった。過去5年では、0～3人で推移している。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は1人（前年1人）であった。過去5年では、毎年0～3人で推移している。

年齢層別報告数は、70歳以上が1人であった。

5. 病原体検査検出結果

(1) ウイルス検査結果 (【】内は臨床診断名)

【インフルエンザ】

2022－2023 年シーズンは、1 月にインフルエンザウイルス A(H3)型 1 件、2 月にパラインフルエンザウイルス 3 型 1 件が検出された。

翌シーズンは、9 月にインフルエンザウイルス A(H1pdm09)型 1 件、B 型(Victoria 系統)1 件、11 月にインフルエンザウイルス A(H1pdm09)型 2 件、12 月にインフルエンザウイルス A(H1pdm09)型 1 件、A(H3)型 1 件が検出された。

年間を通しては、インフルエンザウイルスが、A(H1pdm09)型 4 件、A(H3)型 2 件、B 型(Victoria 系統)1 件の合計 7 件、パラインフルエンザウイルス 3 型が 1 件検出された。

インフルエンザウイルス	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
A(H1pdm09)型									1		2	1	4
A(H3)型	1											1	2
B 型(Victoria 系統)									1				1
B 型(山形系統)													

【RS ウイルス感染症】

患者検体から、RS ウイルスが 1 件検出された。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

患者検体から、ライノウイルス、ヒトパレコウイルス 1 型が 1 件ずつ検出された。

【感染性胃腸炎】

患者検体から、ライノウイルス、アデノウイルス 2 型が 1 件ずつ検出された。

【ヘルパンギーナ】

患者検体から、ライノウイルス、コクサッキーウイルス A 群 4 型が 2 件ずつ、コクサッキーウイルス A 群 2 型、ヒトパレコウイルス 1 型、アデノウイルス 3 型、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 1 件ずつ検出された。

【流行性耳下腺炎】

患者検体から、サイトメガロウイルスが 1 件検出された。

【無菌性髄膜炎】

患者検体から、コクサッキーウイルス B 群 5 型が 5 件検出された。

【インフルエンザ様疾患】

患者検体から、パラインフルエンザウイルス 3 型、ヒトメタニューモウイルスが 4 件ずつ、RS ウィルス、ライノウイルス、サイトメガロウイルスが 3 件ずつ、パラインフルエンザウイルス 2 型、コクサッキーウイルス A 群 9 型、ヒトパレコウイルス 1 型、アデノウイルス 3 型が 1 件ずつ検出された。

【不明発しん症】

患者検体から、ライノウイルス、サイトメガロウイルスが 2 件ずつ、ヒトパレコウイルス 1 型と 5 型がそれぞれ 1 件ずつ検出された。

【その他】

その他の患者検体から、RS ウィルスが 3 件、パラインフルエンザウイルス 2 型と 3 型、ライノウイルスがそれぞれ 1 件ずつ検出された。

（２）細菌検査結果

【腸管出血性大腸菌感染症】

県内で腸管出血性大腸菌感染症として届出があった場合、分離菌株の確認検査（生化学的性状、O 抗原、H 抗原の血清型別、毒素型別）を実施し、散在的集団発生の探知に努めている。また、国立感染症研究所では、Multiple-locus variable-number tandem repeat analysis（MLVA）法による遺伝子型別をもとにデータベースを構築しており、分離菌株を送付し、全国における広域食品由来感染症の迅速な探知に努めている。

2023 年に搬入された 11 件の菌株について検査したところ、解析結果は表のとおりであった。

腸管出血性大腸菌の MLVA による解析結果

No.	診断月	保健所名	血清型 (O)	血清型 (H)	VT 型別	MLVA type ¹⁾	疫学情報など
1	1 月	徳島	O157	H7	VT2	19m0149 (22c002)	
2	2 月	徳島	O157	H7	VT2	19m0149 (22c002)	No.1 の接触者
3	3 月	美馬	O26	Hg11	VT1	17m2110 (23c201)	
4	7 月	徳島	O157	H7	VT2	23m0212 (23c026)	
5	7 月	阿南	O157	H7	VT2	20m0148 (23c011)	
6	7 月	徳島	O157	Hg7	VT2	20m0148 (23c011)	
7	7 月	徳島	O26	H11	VT1	23m2048	
8	8 月	徳島	O157	H7	VT1,2	23m0322 (23c043)	
9	10 月	徳島	O157	H7	VT2	23m0495	
10	12 月	徳島	O157	H7	VT2	23m0641	
11	12 月	徳島	O157	H7	VT2	23m0363 (23c055)	
			O103	Hg2	VT1	22m4006	

¹⁾ 国立感染症研究所により 17 種類の遺伝子座のリピート数で決定。番号に近いものが必ずしも似ているとは限らない。

【カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症】

患者由来株 3 株が搬入された。菌株の内訳は、*Klebsiella pneumoniae* 2 株、*Escherichia coli* 1 株であった。PCR 法による β -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、IMP 型遺伝子及び CTX-M-2group 遺伝子保有株が 1 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 2 株であった。

【劇症型溶血性レンサ球菌感染症】

患者由来株 5 株が搬入され、Lancefield 分類による群別を行ったところ、A 群が 4 株、G 群が 1 株であった。

A 群は、すべて *Streptococcus pyogenes* であり、G 群は *Streptococcus dysgalactiae ssp. equisimilis* (SDSE) であった。

S. pyogenes の免疫血清による T 血清型別では、1 型が 2 株、B3264 型が 1 株、14/49 型が 1 株であった。

S. pyogenes 及び SDSE について、M タンパク又は M 様タンパクをコードする遺伝子により行う *emm* 型別では、*S. pyogenes* は、1 型が 2 株、49 型が 1 株、89 型が 1 株であり、SDSE では、stC36 型であった。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

患者検体から、A 群溶血性レンサ球菌 1 件が分離された。

【感染性胃腸炎】

患者検体から、カンピロバクター属菌 1 件が分離された。

臨床診断名別病原体検出一覧表

種別	検出病原体	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	インフルエンザ様疾患	不明発しん症	脳炎・脳症	その他	計
ウイルス	インフルエンザウイルス	A(H1pdm09)	4																4
		A(H3)	2																2
		B(Victoria系統)	1																1
		B(山形系統)																	
	パラインフルエンザウイルス	1																	
		2													1			1	2
		3	1												4			1	6
	ヒトメタニューモウイルス														4				4
	RSウイルス			1											3			3	7
	ムンプスウイルス																		
	ライノウイルス					1	1								3	2		1	10
	コクサッキーウイルスA群	2									1								1
		4									2								2
		5																	
		6																	
		9													1				1
		10																	
		12																	
		16																	
	コクサッキーウイルスB群	1																	
		2																	
		3																	
		4																	
		5												5					5
	エコーウイルス	6																	
		3																	
		6																	
		7																	
		9																	
		11																	
		18																	
		30																	
	エンテロウイルス	D68																	
		71																	
	ヒトパレコウイルス	1			1						1				1	1			4
		3																	
		5														1			1
	アデノウイルス	1																	
		2				1													1
		3									1				1				2
		4																	
		5																	
		6																	
		31																	
		40/41																	
		41																	
	ノロウイルス	GI																	
		GII																	
	サボウイルス																		
	ロタウイルス																		
	単純ヘルペスウイルス																		
	水痘・帯状疱疹ウイルス																		
	EBウイルス																		
	サイトメガロウイルス											1			3	2			6
	ヒトヘルペスウイルス	6									1								1
		7																	
	パルボウイルスB19																		
	ウイルス 計		8	1		2	2				8	1		5	21	6		6	60
細菌	カンビロバクター属菌					1													1
	サルモネラ属菌																		
	A群溶血性レンサ球菌				1														1
	下痢原性大腸菌																		
	マイコプラズマ・ニューモニエ																		
	その他の菌																		
	細菌 計				1	1													2
合 計			8	1		3	3				8	1		5	21	6		6	62

検出病原体月別一覧表

種別	検出病原体		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ウイルス	インフルエンザウイルス	A(H1pdm09)									1		2	1	4
		A(H3)	1											1	2
		B(Victoria系統)									1				1
		B(山形系統)													
	パラインフルエンザウイルス	1													
		2										1		1	2
		3		2				4							6
	ヒトメタニューモウイルス				1		1			1	1				4
	RSウイルス							2	4	1					7
	ムンプスウイルス														
	ライノウイルス				1	1	3	1	2	1	1				10
	コクサッキーウイルスA群	2					1								1
		4					2								2
		5													
		6													
		9						1							1
		10													
		12													
		16													
	コクサッキーウイルスB群	1													
		2													
		3													
		4													
		5					3			2					5
		6													
	エコーウイルス	3													
		6													
		7													
		9													
		11													
		18													
		30													
	エンテロウイルス	D68													
		71													
	ヒトパレコウイルス	1							1	1	1		1		4
		3													
5									1					1	
アデノウイルス	1														
	2									1				1	
	3											2		2	
	4														
	5														
	6														
	31														
	40/41														
	41														
ノロウイルス	GⅠ														
	GⅡ														
サポウイルス															
ロタウイルス															
単純ヘルペスウイルス															
水痘・帯状疱疹ウイルス															
EBウイルス															
サイトメガロウイルス			1	1			1	2				1		6	
ヒトヘルペスウイルス	6					1								1	
	7														
パルボウイルスB19															
ウイルス 計			1	3	3	1	11	9	9	7	6	1	6	3	60
細菌	カンビロバクター属菌		1												1
	サルモネラ属菌														
	A群溶血性レンサ球菌											1			1
	下痢原性大腸菌														
	マイコプラズマ・ニューモニエ														
その他の菌															
細菌 計			1									1			2
合 計			2	3	3	1	11	9	9	7	6	2	6	3	62

6. 資料

(1) 全数把握対象疾患の患者数

付表 1 : 2023 (令和 5) 年全数把握対象疾患の月別患者数

付表 2 : 2023 (令和 5) 年全数把握対象疾患の保健所別患者数

(2) 定点把握対象疾患 (週報) の患者数

付表 3 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (週) の週別患者報告数

付表 4 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (週) の週別定点あたり患者報告数

付表 5 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (週) の保健所別患者報告数

付表 6 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (週) の保健所別定点あたり患者報告数

付表 7 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (週) の年齢階級別報告数

(3) 定点把握対象疾患 (月報) の患者数

付表 8 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (月) の月別患者報告数

付表 9 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (月) の年齢階級・性別報告数

(4) 警報・注意報発生システムについて

付表 1：2023（令和 5）年全数把握対象疾患の月別患者数

類型	疾患名 / 診断月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計	前年
二類	結核	3	10	7	4	11	4	5	14	9	3	6	4	80	95
三類	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	1				4	1		1		2	11	19
四類	A型肝炎														1
	重症熱性血小板減少症候群						3				1			4	1
	つつが虫病						1					1		2	2
	日本紅斑熱				1	1	1	2		2				7	13
	ライム病									1				1	
	レジオネラ症						3	5	1		1	3	1	14	17
五類	アメーバ赤痢									1				1	2
	ウイルス性肝炎							1	1					2	1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症								1					1	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1							1			2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										1	2	2	5	2
	後天性免疫不全症候群			1		1								2	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1				1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症								1				1	2	5
	水痘(入院例)														1
	梅毒	8	6	3	8	7	10	11	6	7	7	3	2	78	67
	播種性クリプトコックス症														2
	破傷風						1						1	2	1
	百日咳		3	5	2	22	12	13	7	6	7		1	78	67
※	新型コロナウイルス感染症 ¹⁾	25,022	6,247	2,149	1,107	254								34,779	130,116

※新型インフルエンザ等感染症

¹⁾令和2年2月1日より指定感染症に追加指定、令和3年2月13日より新型インフルエンザ等感染症に変更、令和5年5月8日より定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ指定された。

付表 2：2023（令和 5）年全数把握対象疾患の保健所別患者数

類型	疾患名 / 保健所名	徳島	阿南	美波	吉野川	美馬	三好	フォローアップセンター	総計
二類	結核	62	2	2	8	2	4		80
三類	腸管出血性大腸菌感染症	9	1			1			11
四類	A型肝炎								
	重症熱性血小板減少症候群	3		1					4
	つつが虫病	1			1				2
	日本紅斑熱	2		4			1		7
	ライム病	1							1
	レジオネラ症	6	3		5				14
五類	アメーバ赤痢		1						1
	ウイルス性肝炎	2							2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1							1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2							2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5							5
	後天性免疫不全症候群	2							2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1
	侵襲性肺炎球菌感染症	2							2
	水痘(入院例)								
	梅毒	62	9		4	1	2		78
	播種性クリプトコックス症								
	破傷風	2							2
	百日咳	78							78
※	新型コロナウイルス感染症 ¹⁾	20,103	2,706	1,023	3,231	1,170	1,681	4,865	34,779

※新型インフルエンザ等感染症

¹⁾令和2年2月1日より指定感染症に追加指定、令和3年2月13日より新型インフルエンザ等感染症に変更、令和5年5月8日より定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ指定された。

付表 3：2023（令和 5）年定点把握対象疾患（週）の週別患者報告数

週	期 間	インフルエンザ ／新型コロナウイルス感染症 定点		小児科 定点							
		イン フル エン ザ	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん
1	1/2～	172		2			101	1	5		11
2	1/9～	264		3	2	1	126	6	6		4
3	1/16～	228		11	1	1	172	1	3		9
4	1/23～	203		8			133	1	11		6
5	1/30～	172		13	2	2	166		9		5
6	2/6～	203		9	4	1	183	3	3		5
7	2/13～	224		5	1	1	166		1	1	7
8	2/20～	263		2	2		149	2			4
9	2/27～	288		5	6	1	170	1		1	5
10	3/6～	378		2	1	1	138	2			9
11	3/13～	227		2	2	3	142	1			8
12	3/20～	95		5		1	109				5
13	3/27～	76		5	5	4	114				6
14	4/3～	48		6	5	2	74	2		1	4
15	4/10～	22		5	7	4	101				7
16	4/17～	39		7	4	3	131				11
17	4/24～	63		13	2	5	108	3			10
18	5/1～	36		10	2	3	73	3			7
19	5/8～	26	61	11	9	6	115	3			11
20	5/15～	18	60	32	9	4	100	4	4		8
21	5/22～	32	112	46	11	7	119	4	10		7
22	5/29～	11	119	38	9	7	86	2	13		7
23	6/5～	10	164	68	12	12	89		18		7
24	6/12～	6	139	85	20	11	99		18		6
25	6/19～	1	169	124	5	9	97		27		9
26	6/26～	12	202	131	3	7	74		25		8
27	7/3～	12	293	161	12	6	79		19		7
28	7/10～	5	403	164	5	2	59		20		9
29	7/17～	7	611	167	4	5	48	2	24		5
30	7/24～	15	677	154	6	7	65	1	17		9
31	7/31～	20	623	101	4	6	68	1	15		3
32	8/7～	10	546	63	3	6	59		11		7
33	8/14～	18	730	35	12	9	63	2	11	1	7
34	8/21～	21	827	23	11	6	88	5	18	1	8
35	8/28～	77	807	24	16	9	78		2		8
36	9/4～	254	732	17	12	8	64		32	1	6
37	9/11～	383	631	5	22	11	42	1	10		5
38	9/18～	332	333		28	5	53	2	17		5
39	9/25～	456	306	5	34	11	61	1	21		9
40	10/2～	312	171	7	38	16	70	2	21		10
41	10/9～	315	107	5	32	19	30	1	16		3
42	10/16～	330	92	1	53	22	59	2	24		6
43	10/23～	433	123	2	57	23	56	1	18	1	3
44	10/30～	702	87	1	56	15	63	1	7		4
45	11/6～	775	75	2	76	36	86	2	6		6
46	11/13～	801	64	2	87	22	86		11		5
47	11/20～	956	63	1	69	26	56	1	8		4
48	11/27～	914	66	2	79	34	77	1	8		5
49	12/4～	1,224	96		85	38	181	1	17		7
50	12/11～	928	115	1	77	40	186	2	15		7
51	12/18～	807	214		65	43	155		4		4
52	12/25～	672	243		50	23	126		5		8
合計		13,896	10,061	1,591	1,117	544	5,193	68	530	7	346
男性		7,330	4,899	872	615	291	2,741	45	289	2	191
女性		6,566	5,162	719	502	253	2,452	23	241	5	155

週	期 間	小児科定点		眼科定点		基幹定点				
		ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	（ロタウイルス） 感染性胃腸炎
1	1/2～				1	1				
2	1/9～				1					
3	1/16～	2								
4	1/23～	2		1			1			
5	1/30～		2							
6	2/6～		2							
7	2/13～	1	1				1			
8	2/20～									
9	2/27～									
10	3/6～									
11	3/13～		1							
12	3/20～			1						
13	3/27～									
14	4/3～									
15	4/10～									
16	4/17～		1				1			
17	4/24～	2								
18	5/1～	1	1			1				
19	5/8～	11	1							
20	5/15～	20	1							
21	5/22～	54								
22	5/29～	68	2		2					
23	6/5～	110								
24	6/12～	148			1					
25	6/19～	142	1							
26	6/26～	111			1					
27	7/3～	82			1					
28	7/10～	78								
29	7/17～	54			1					
30	7/24～	46								
31	7/31～	26	2							
32	8/7～	18								
33	8/14～	7	1		1					
34	8/21～	7	2		1		1			
35	8/28～	14	1		3		2			
36	9/4～	21				1				
37	9/11～	10			1		1			
38	9/18～	15					1			
39	9/25～	11	1				1			
40	10/2～	11			1	1				
41	10/9～	5					1			
42	10/16～	11	1		1	1	1			
43	10/23～	3								
44	10/30～		1							
45	11/6～	6			1					
46	11/13～	1								
47	11/20～									
48	11/27～				2		1			
49	12/4～	6			3			1		
50	12/11～	3								
51	12/18～				2					
52	12/25～				2					
合計		1,107	22	2	26	5	12	1	0	0
男性		601	10	1	7	2	5	1	0	0
女性		506	12	1	19	3	7	0	0	0

付表４：2023（令和５）年定点把握対象疾患（週）の週別定点あたり患者報告数

週	期 間	インフルエンザ ／新型コロナウイルス感染症定点		小児科定点							
		イン フル エン ザ	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん
1	1/2～	4.65		0.09			4.39	0.04	0.22		0.48
2	1/9～	7.14		0.13	0.09	0.04	5.48	0.26	0.26		0.17
3	1/16～	6.16		0.48	0.04	0.04	7.48	0.04	0.13		0.39
4	1/23～	5.49		0.35			5.78	0.04	0.48		0.26
5	1/30～	4.65		0.57	0.09	0.09	7.22		0.39		0.22
6	2/6～	5.49		0.39	0.17	0.04	7.96	0.13	0.13		0.22
7	2/13～	6.05		0.22	0.04	0.04	7.22		0.04	0.04	0.30
8	2/20～	7.11		0.09	0.09		6.48	0.09			0.17
9	2/27～	7.78		0.22	0.26	0.04	7.39	0.04		0.04	0.22
10	3/6～	10.22		0.09	0.04	0.04	6.00	0.09			0.39
11	3/13～	6.14		0.09	0.09	0.13	6.17	0.04			0.35
12	3/20～	2.57		0.22		0.04	4.74				0.22
13	3/27～	2.05		0.22	0.22	0.17	4.96				0.26
14	4/3～	1.30		0.26	0.22	0.09	3.22	0.09		0.04	0.17
15	4/10～	0.59		0.22	0.30	0.17	4.39				0.30
16	4/17～	1.05		0.30	0.17	0.13	5.70				0.48
17	4/24～	1.70		0.57	0.09	0.22	4.70	0.13			0.43
18	5/1～	0.97		0.43	0.09	0.13	3.17	0.13			0.30
19	5/8～	0.70	1.65	0.48	0.39	0.26	5.00	0.13			0.48
20	5/15～	0.49	1.62	1.39	0.39	0.17	4.35	0.17	0.17		0.35
21	5/22～	0.86	3.03	2.00	0.48	0.30	5.17	0.17	0.43		0.30
22	5/29～	0.30	3.22	1.65	0.39	0.30	3.74	0.09	0.57		0.30
23	6/5～	0.27	4.43	2.96	0.52	0.52	3.87		0.78		0.30
24	6/12～	0.16	3.76	3.70	0.87	0.48	4.30		0.78		0.26
25	6/19～	0.03	4.57	5.39	0.22	0.39	4.22		1.17		0.39
26	6/26～	0.32	5.46	5.70	0.13	0.30	3.22		1.09		0.35
27	7/3～	0.32	7.92	7.00	0.52	0.26	3.43		0.83		0.30
28	7/10～	0.14	10.89	7.13	0.22	0.09	2.57		0.87		0.39
29	7/17～	0.19	16.51	7.26	0.17	0.22	2.09	0.09	1.04		0.22
30	7/24～	0.41	18.30	6.70	0.26	0.30	2.83	0.04	0.74		0.39
31	7/31～	0.54	16.84	4.39	0.17	0.26	2.96	0.04	0.65		0.13
32	8/7～	0.27	14.76	2.74	0.13	0.26	2.57		0.48		0.30
33	8/14～	0.49	19.73	1.52	0.52	0.39	2.74	0.09	0.48	0.04	0.30
34	8/21～	0.57	22.35	1.00	0.48	0.26	3.83	0.22	0.78	0.04	0.35
35	8/28～	2.08	21.81	1.04	0.70	0.39	3.39		0.09		0.35
36	9/4～	6.86	19.78	0.74	0.52	0.35	2.78		1.39	0.04	0.26
37	9/11～	10.35	17.05	0.22	0.96	0.48	1.83	0.04	0.43		0.22
38	9/18～	8.97	9.00		1.22	0.22	2.30	0.09	0.74		0.22
39	9/25～	12.32	8.27	0.22	1.48	0.48	2.65	0.04	0.91		0.39
40	10/2～	8.43	4.62	0.30	1.65	0.70	3.04	0.09	0.91		0.43
41	10/9～	8.51	2.89	0.22	1.39	0.83	1.30	0.04	0.70		0.13
42	10/16～	8.92	2.49	0.04	2.30	0.96	2.57	0.09	1.04		0.26
43	10/23～	11.70	3.32	0.09	2.48	1.00	2.43	0.04	0.78	0.04	0.13
44	10/30～	18.97	2.35	0.04	2.43	0.65	2.74	0.04	0.30		0.17
45	11/6～	20.95	2.03	0.09	3.30	1.57	3.74	0.09	0.26		0.26
46	11/13～	21.65	1.73	0.09	3.78	0.96	3.74		0.48		0.22
47	11/20～	25.84	1.70	0.04	3.00	1.13	2.43	0.04	0.35		0.17
48	11/27～	24.70	1.78	0.09	3.43	1.48	3.35	0.04	0.35		0.22
49	12/4～	33.08	2.59		3.70	1.65	7.87	0.04	0.74		0.30
50	12/11～	25.08	3.11	0.04	3.35	1.74	8.09	0.09	0.65		0.30
51	12/18～	21.81	5.78		2.83	1.87	6.74		0.17		0.17
52	12/25～	18.16	6.57		2.17	1.00	5.48		0.22		0.35
合計		375.57	271.92	69.17	48.57	23.65	225.78	2.96	23.04	0.30	15.04

警報

注意報

週	期 間	小児科定点		眼科定点		基幹定点				
		ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(感染性胃腸炎) (ロタウイルス)
1	1/2～				0.25	0.14				
2	1/9～				0.25					
3	1/16～	0.09								
4	1/23～	0.09		0.25			0.14			
5	1/30～		0.09							
6	2/6～		0.09							
7	2/13～	0.04	0.04				0.14			
8	2/20～									
9	2/27～									
10	3/6～									
11	3/13～		0.04							
12	3/20～			0.25						
13	3/27～									
14	4/3～									
15	4/10～									
16	4/17～		0.04				0.14			
17	4/24～	0.09								
18	5/1～	0.04	0.04			0.14				
19	5/8～	0.48	0.04							
20	5/15～	0.87	0.04							
21	5/22～	2.35								
22	5/29～	2.96	0.09		0.50					
23	6/5～	4.78								
24	6/12～	6.43			0.25					
25	6/19～	6.17	0.04							
26	6/26～	4.83			0.25					
27	7/3～	3.57			0.25					
28	7/10～	3.39								
29	7/17～	2.35			0.25					
30	7/24～	2.00								
31	7/31～	1.13	0.09							
32	8/7～	0.78								
33	8/14～	0.30	0.04		0.25					
34	8/21～	0.30	0.09		0.25		0.14			
35	8/28～	0.61	0.04		0.75		0.29			
36	9/4～	0.91				0.14				
37	9/11～	0.43			0.25		0.14			
38	9/18～	0.65					0.14			
39	9/25～	0.48	0.04				0.14			
40	10/2～	0.48			0.25	0.14				
41	10/9～	0.22					0.14			
42	10/16～	0.48	0.04		0.25	0.14	0.14			
43	10/23～	0.13								
44	10/30～		0.04							
45	11/6～	0.26			0.25					
46	11/13～	0.04								
47	11/20～									
48	11/27～				0.50		0.14			
49	12/4～	0.26			0.75			0.14		
50	12/11～	0.13								
51	12/18～				0.50					
52	12/25～				0.50					
合計		48.13	0.96	0.50	6.50	0.71	1.71	0.14		

警報

注意報

付表５：２０２３（令和５）年定点把握対象疾患（週）の保健所別患者報告数

疾患名		保健所名	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	
インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 定点	インフルエンザ	徳島	100	153	171	136	134	165	186	179	190	227	147	49	24	15	6	13	49	32	22	15	32	10	5			1	6
		阿南	29	37	16	8	9	11	10	4	10	10	12	7	8	2	1	4		1									3
		美波	15	37	11	5		1				1			7														2
		吉野川	8	10	10	18	18	20	12	15	15	43	20	23	3	8	4	13	5		2	2				1	1		1
		美馬	12	12	11	18	6		7	30	30	39	8	3	14	13	7	7	9	1		1				3	3		
		三好	8	15	9	18	5	6	9	35	43	58	40	13	20	10	4	2		2	2				1	1	2		
	新型コロナウイルス感染症	徳島																			37	35	61	60	105	84	105	104	
		阿南																			7	6	12	18	27	14	24	40	
		美波																			2	2	6	1	5	4	4	25	
		吉野川																			7	2	3	13	9	10	9	7	
		美馬																			1	3	6	11	4	11	16	16	
		三好																			7	12	24	16	14	16	11	10	
小児科 定点	RSウイルス感染症	徳島	2	2	6	7	9	4		2	3	2	2	4	5	6	5	7	13	9	9	14	33	29	53	69	91	100	
		阿南			1	1	4				1											2	2	5	5	4	8	6	
		美波																										1	
		吉野川		1	3			5	5		1			1							1	2	15	10	2	7	10	20	22
		美馬			1																	1		1	2	2	4	1	
		三好																							1	1	1	1	
	咽頭結膜熱	徳島		2	1		1	3		1	5				3	4	7	3	2		7	6	7	5	7	10	4	1	
		阿南																					3		2				
		美波																											
		吉野川					1	1	1	1	1	1	2		2	1		1		2	2		1	1		5	1	2	
		美馬																					3		3	3	5		
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	三好																											
		徳島		1	1		2	1				1	3	1	4	2	2		5	3	5	3	2	5	8	10	9	5	
		阿南																											
		美波																					1						
		吉野川										1						2	3		1	1	4	1	4	1		2	
	感染性胃腸炎	美馬																											
		三好																							1				
		徳島	72	102	140	109	133	147	109	103	138	99	100	77	85	57	78	102	91	48	78	75	90	64	60	67	69	47	
		阿南	3	1	13	3	2	1	7	2	2	2	2	1	5	1	1	10		2	7	3			1	2	1		
		美波	8	1	2	1	2	12	22	26	9	15	2	11	9	8	7	8	4	6	4	2	6	2	9	14	8	7	
		吉野川	1	3	3	4	3	3	2	1	2	1	2	3	2	1		3		3					1	1	3		
	水痘	美馬	8	14	9	9	15	12	18	8	13	14	28	11	10	4	10	5	4	8	12	8	17	13	12	10	16	8	
		三好	9	5	5	7	11	8	8	9	6	7	8	6	3	3	5	3	9	6	14	12	6	7	6	5	4	8	
		徳島	1	6		1		2		1	1	2								1	1		2	1	1				
		阿南														2				2	1	1	1	3	1				
		美波																											
	手足口病	吉野川								1											1	1	1						
		美馬			1									1															
		三好						1																					
		徳島	5	3	3	2	2		1														4	8	12	16	18	27	25
		阿南																											
	伝染性紅斑	美波		2		4	5	2																					
		吉野川																											
		美馬																											
		三好		1																									
		徳島									1						1												
	突発性発しん	阿南																											
		美波																											
		吉野川																											
		美馬																											
		三好																											
	百日咳	徳島	10	4	8	6	4	4	3	2	4	6	7	1	4	3	7	9	7	7	8	6	6	4	4	6	7	5	
		阿南																											
		美波																											
		吉野川																											
		美馬																											
	ヘルパンギーナ	三好																											
		徳島																											
		阿南																											
		美波																											
		吉野川																											
	流行性耳下腺炎	美馬																											
		三好																											
		徳島																											
		阿南																											

疾患名	保健所名	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	合計	
インフルエンザ	徳島	10	3	7	14	15	8	15	14	49	145	242	165	274	206	213	227	268	357	407	473	583	580	751	514	503	360	8470	
	阿南	2			1	5			2	1	18	27	17	32	39	24	42	45	35	31	45	37	50	59	64	60	57	79	954
	美波		1								4	2	1	5	24	3	2	7	10	43	69	26	25	36	71	56	43	24	531
	吉野川		1							1	1	4	25	44	26	46	18	16	52	109	85	100	116	93	153	135	112	77	1466
	美馬 三好							2	1	3	4	60	79	42	40	10	27	22	35	74	92	91	102	98	113	101	56	52	1068
新型コロナウイルス感染症	徳島	180	234	331	412	399	325	334	472	461	411	361	188	161	96	53	37	50	26	45	29	24	43	60	83	139	130	5675	
	阿南	37	47	118	92	89	90	129	102	98	92	79	23	46	23	24	16	12	11	9	6	7	10	5	9	17	23	1362	
	美波	14	4	6	8	11	14	51	63	71	62	51	26	10	8	4	13	25	8	7	1	1	3	20	4	7	2	543	
	吉野川	25	26	34	54	43	47	69	87	55	54	61	34	23	17	8	4	8	3	5	15	8	1	6	13	13	18	791	
	美馬 三好	21	37	65	49	30	33	94	63	58	87	39	38	34	18	11	12	5	11	5	6	3	2	2	4	13	26	834	
RSウイルス感染症	徳島	114	105	91	91	65	29	10	16	18	13	5		1				1										1045	
	阿南	6	4	17	8	7	7	3			2	2							1									96	
	美波	4	3	10	5	1	2	5	2	1	1							1										36	
	吉野川	28	37	35	33	18	13	11	2																			282	
	美馬 三好	5	6	8	7	7	5							1	2	2	1				2	2	1	2		1		56	
咽頭結膜熱	徳島	8	5	4	6	2	2	7	8	16	12	21	28	31	36	26	41	48	47	58	76	55	48	59	39	34	26	822	
	阿南	3				1		3	2					2	1	3		1	3	2	2		12	9	10	10	8	77	
	美波							2	1														4	3	3	15	11	8	47
	吉野川					1	1					1		1	1	3	12	8	6	12	9	10	14	12	11	7	3	138	
	美馬 三好	1																		1								3	19
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	徳島	6	2	4	5	3	3	4	6	5	5	8	4	10	12	11	15	19	13	29	16	15	27	27	21	26	9	378	
	阿南																						4		1			5	
	美波				1	1					2	1																6	
	吉野川			1	1	2	2	4		2	2	1	1				2	2	1		1	1	3		2	10	4	4	66
	美馬 三好							1	1				2		1	4	6	5	3	2	6	5	4	6	7	7	10	7	79
感染性胃腸炎	徳島	55	41	30	44	44	39	44	69	50	37	17	32	35	39	12	39	37	37	52	49	32	48	130	116	113	84	3665	
	阿南	1									1		1		1			1	1	2				2	5	3	3	98	
	美波	5	7	2	7	9	6	8	11	12	8	9	4	7	5	4	5	7	2	1	14	6	10	20	25	9	10	418	
	吉野川		1											1			1						2	1	2		1	5	56
	美馬 三好	13	6	16	9	10	7	11	5	13	15	11	13	11	7	7	7	7	13	22	12	9	7	15	31	16	19	608	
水痘	徳島	5	4		5	5	6		3	2	4	4	3	7	18	7	7	4	10	9	11	7	9	9	11	13	5	348	
	阿南				1	1		2	3				1	1	1	1	2		1	1			1	1				37	
	美波			2																								12	
	吉野川								2				1							1		1						9	
	美馬 三好															1			1						2			6	
手足口病	徳島	18	17	22	17	13	10	8	15		31	7	9	10	6	12	13	10	3	3	5	7	6	17	15	1	5	406	
	阿南	1		1													2				3	1	2			3		13	
	美波												1				1	2	3	2	2							24	
	吉野川			1		2			1	2		3	7	10	13	4	2	3		1								51	
	美馬 三好							2	1						1		2	2	1		1							21	
伝染性紅斑	徳島		3					1	1	1					1	1		4	1									15	
	阿南							1	1			1							1									12	
	美波																											0	
	吉野川																											0	
	美馬 三好																											0	
突発性発しん	徳島	6	9	4	6	2	5	5	7	6	5	3	5	7	8	2	4	3	4	5	5	3	4	5	5	4	7	271	
	阿南													1								1						4	
	美波													1						1			1	1				15	
	吉野川				1		1			1		1					1											12	
	美馬 三好				1			1	1							1									1	1		1	25
百日咳	1		1	1	1	1	1	1		1	1	1			2		1								1			19	
	徳島																											0	
	阿南																											0	
	美波																											0	
	吉野川																											0	
ヘルパンギーナ	徳島	28	34	21	32	17	9	2	3	9	9	5	12	5	3	2	8	2		3	1				6	3		683	
	阿南	10	3	1									1															40	
	美波	6	16	15	3	1			1	2																		50	
	吉野川	17	3	2	2	3	4				3	11	5	1	4	7	1	1		3								146	
	美馬 三好	11	17	9	6	3	4	3	2	1	1		1	2	1	1		1										124	
流行性耳下腺炎	徳島	10	5	6	3	2	1	1		1							1	2										64	
	徳島					2		1	1	1				1			1		1									17	
	阿南																											0	
	美波																											0	
	吉野川								1																			1	

	疾患名	保健所名	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
眼科 定点	急性出血性結膜炎	徳島												1														
		阿南				1																						
		美波																										
	流行性角結膜炎	徳島																					1			1		
		阿南																					1					1
		美波	1	1																								
基幹 定点	細菌性髄膜炎	徳島																		1								
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好	1																									
	無細菌性髄膜炎	徳島				1			1									1										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好																										
	マイコプラズマ肺炎	徳島																										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
	クラミジア肺炎	美馬																										
		三好																										
		徳島																										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	美馬																										
		三好																										
		徳島																										
		阿南																										
		美波																										

疾患名	保健所名	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	合計
急性出血性結膜炎	徳島																											1
	阿南																											1
	美波																											0
流行性角結膜炎	徳島	1							1	3		1			1		1			1				2			1	14
	阿南			1				1															2			1		7
	美波																							1		1	1	5
細菌性髄膜炎	徳島										1				1		1											4
	阿南																											0
	美波																											0
	吉野川																											0
	美馬																											0
	三好																											1
無細菌性髄膜炎	徳島								1	2		1	1	1		1	1						1					12
	阿南																											0
	美波																											0
	吉野川																											0
	美馬																											0
	三好																											0
マイコプラズマ肺炎	徳島																							1				1
	阿南																											0
	美波																											0
	吉野川																											0
	美馬																											0
	三好																											0
クラミジア肺炎	徳島																											0
	阿南																											0
	美波																											0
	吉野川																											0
	美馬																											0
	三好																											0
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	徳島																											0
	阿南																											0
	美波																											0
	吉野川																											0
	美馬																											0
	三好																											0

付表 6 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (週) の保健所別定点あたり患者報告数

[illegible]警報

注意報

	疾患名	保健所名	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
眼科 定点	急性出血性結膜炎	徳島												0.5														
		阿南				1.0																						
		美波																										
	流行性角結膜炎	徳島																						0.5		0.5		
		阿南																						1.0				1.0
		美波	1.0	1.0																								
基幹 定点	細菌性髄膜炎	徳島																		0.5								
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好	1.0																									
	無細菌性髄膜炎	徳島				0.5			0.5									0.5										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好																										
	マイコプラズマ肺炎	徳島																										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好																										
	クラミジア肺炎	徳島																										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好																										
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	徳島																										
		阿南																										
		美波																										
		吉野川																										
		美馬																										
		三好																										

疾患名	保健所名	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	合計
急性出血性結膜炎	徳島																											0.5
	阿南																											1.0
	美波																											0.0
流行性角結膜炎	徳島	0.5							0.5	1.5		0.5			0.5		0.5			0.5				1.0			0.5	7.0
	阿南			1.0				1.0														2.0				1.0		7.0
	美波																						1.0			1.0	1.0	5.0
細菌性髄膜炎	徳島										0.5				0.5		0.5											2.0
	阿南																											0.0
	美波																											0.0
	吉野川																											0.0
	美馬																											0.0
	三好																											1.0
無細菌性髄膜炎	徳島								0.5	1.0		0.5	0.5	0.5		0.5	0.5					0.5						6.0
	阿南																											0.0
	美波																											0.0
	吉野川																											0.0
	美馬																											0.0
	三好																											0.0
マイコプラズマ肺炎	徳島																						0.5					0.5
	阿南																											0.0
	美波																											0.0
	吉野川																											0.0
	美馬																											0.0
	三好																											0.0
クラミジア肺炎	徳島																											0.0
	阿南																											0.0
	美波																											0.0
	吉野川																											0.0
	美馬																											0.0
	三好																											0.0
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	徳島																											0.0
	阿南																											0.0
	美波																											0.0
	吉野川																											0.0
	美馬																											0.0
	三好																											0.0

付表 7：2023（令和 5）年定点把握対象疾患（週）の年齢階級別報告数

定点	インフルエンザ／ 新型コロナウイルス感染症定点		小児科定点										眼科定点		基幹定点				
疾患名	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 （ロタウイルス）
～5ヶ月	56	68	216	6	1	52	2	7	0	1	9	0	0	0	0	4	0	0	0
～11ヶ月	107	129	223	37	8	385	6	34	1	95	76	0	0	0	0	0	0	0	0
1歳	369	196	572	217	20	995	5	185	1	219	299	1	0	1	0	0	0	0	0
2歳	457	142	283	224	39	830	8	151	1	23	240	3	0	0	0	0	0	0	0
3歳	573	143	158	223	72	549	6	76	0	5	190	0	0	0	0	0	0	0	0
4歳	678	143	76	149	80	433	9	30	0	2	123	3	0	0	0	0	0	0	0
5歳	834	166	45	108	91	368	9	25	1	1	91	3	0	0	0	0	0	0	0
6歳	886	162	10	61	73	278	4	8	1	0	39	3	0	0	0	0	0	0	0
7歳	939	168	1	34	45	150	1	5	2	0	20	2	0	0	0	0	0	0	0
8歳	825	215	0	13	37	155	3	1	0	0	7	2	0	1	0	0	0	0	0
9歳	782	188	4	13	25	93	4	1	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	2897	991	2	18	42	410	8	3	0	0	6	3	0	1	0	0	1	0	0
15～19歳	1081	704	0	1	1	144	2	2	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0
20歳代*	556	805	1	13	10	351	1	2	0	0	1	0	2	2	0	4	0	0	0
30歳代	904	1026											0	9	0	1	0	0	0
40歳代	876	1217											0	6	0	0	0	0	0
50歳代	387	1023											0	2	0	1	0	0	0
60歳代	322	859											0	2	0	1	0	0	0
70歳代*	224	925											0	1	1	0	0	0	0
80歳代以上	143	791													4	1	0	0	0
合計	13,896	10,061	1,591	1,117	544	5,193	68	530	7	346	1,107	22	2	26	5	12	1	0	0

（＊ 小児科定点については、20 歳代を 20 歳以上に、眼科定点については、70 歳代を 70 歳以上とよみかえる。）

付表 8 : 2023 (令和 5) 年定点把握対象疾患 (月) の月別患者報告数

【性感染症】

疾患名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア 感染症	合計	26	34	16	27	25	25	22	28	23	25	17	18	286
	男	22	30	14	24	21	22	20	26	20	23	15	16	253
	女	4	4	2	3	4	3	2	2	3	2	2	2	33
性器ヘルペス ウイルス感染症	合計	19	5	14	11	16	4	10	12	10	20	13	13	147
	男	3	1			2	2	1	4	1	1	3	1	19
	女	16	4	14	11	14	2	9	8	9	19	10	12	128
尖圭コンジロー マ	合計	1	6	3	5	12	5	8	5	7	5	6	5	68
	男	1	6	3	3	11	5	7	5	5	5	5	5	61
	女				2	1		1		2		1		7
淋菌感染症	合計	1	4	2	6	5	1	4	5	1	7	3	3	42
	男	1	3	2	6	4	1	3	5	1	7	2	3	38
	女		1			1		1				1		4

【薬剤耐性菌感染症】

疾患名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	合計	19	23	15	17	14	22	17	26	22	20	26	32	253
	男	7	12	7	7	10	15	12	13	15	16	14	17	145
	女	12	11	8	10	4	7	5	13	7	4	12	15	108
ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	合計													
	男													
	女													
薬剤耐性 緑膿菌感染症	合計			1										1
	男													
	女			1										1

付表 9：2023（令和 5）年定点把握対象疾患（月）の年齢階級・性別報告数

【性感染症】

年齢区分	性器クラミジア 感染症			性器ヘルペス ウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳												
1～4歳												
5～9歳												
10～14歳												
15～19歳	12	7	5	6		6	1		1	2	1	1
20～24歳	76	68	8	7	3	4	10	8	2	6	6	
25～29歳	52	44	8	8	3	5	15	12	3	10	8	2
30～34歳	37	31	6	13	1	12	9	9		9	9	
35～39歳	31	28	3	17	2	15	4	4		3	2	1
40～44歳	24	23	1	14	4	10	13	12	1			
45～49歳	24	24		14	2	12	6	6		5	5	
50～54歳	8	7	1	23	1	22	7	7		4	4	
55～59歳	14	13	1	20	1	19	1	1		1	1	
60～64歳	5	5		7	1	6	1	1		1	1	
65～69歳	2	2		4	1	3				1	1	
70歳以上	1	1		14		14	1	1				
合計	286	253	33	147	19	128	68	61	7	42	38	4

【薬剤耐性菌感染症】

年齢区分	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症			ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症			薬剤耐性緑膿菌 感染症		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
10歳未満	20	12	8						
10歳代	4	2	2						
20歳代	2	1	1						
30歳代	2	1	1						
40歳代	7	4	3						
50歳代	11	5	6						
60歳代	27	17	10						
70歳以上	180	103	77				1		1
合計	253	145	108				1		1

【警報・注意報発生システムについて】

国立感染症研究所感染症疫学センターから提供されているもので、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、データに何らかの流行現象が見られることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起するものです。

保健所ごとに、1週間の定点あたりの報告数が基準値以上の場合に発せられ、警報レベルは大きな流行が発生又は継続しつつあることが疑われることを意味し、注意報レベルは流行の発生前であれば、今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があること、流行の発生後であれば流行が終息していない可能性が疑われることを意味しています。

「警報レベル」は1週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未満で終息します。「注意報レベル」は1週間の定点あたりの報告数がある基準値以上の場合です。警報・注意報の基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、次のとおり定められています。

対象疾患	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	
感染性胃腸炎	20	12	
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	
伝染性紅斑	2	1	
ヘルパンギーナ	6	2	
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	
流行性角結膜炎	8	4	

(参考資料)

徳島県感染症発生動向調査事業要綱

第1 目的

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「感染症法」という。）が成立し、平成11年4月から施行されたことに伴い、法に基づく施策として感染症発生動向調査事業が位置づけられた。

本事業は、医師等の医療関係者の協力のもと、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の県民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として、本事業を実施する。

第2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、次のとおりとする。

1 全数把握の対象

ア 一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

イ 二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

ウ 三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

エ 四類感染症

(20) E型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22) A型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) エムボックス、(25) 黄熱、(26) オウム病、(27) オムスク出血熱、(28) 回帰熱、(29) キャサナル森林病、(30) Q熱、(31) 狂犬病、(32) コクシジオイデス症、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) Bウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兔病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑熱

オ 五類感染症（全数）

(64) アメーバ赤痢、(65) ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、(67) 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）、(68) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69) クリプトスポリジウム症、(70) クロイツフェルト・ヤコブ病、(71) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72) 後天性免疫不全症候群、(73) ジアルジア症、(74) 侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75) 侵襲性髄膜炎菌感染症、(76) 侵襲性肺炎球菌感染症、(77) 水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78) 先天性風しん症候群、(79) 梅毒、(80) 播種性クリプトコックス症、(81) 破傷風、(82) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83) バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84) 百日咳、(85) 風しん、(86) 麻しん、(87) 薬剤耐性ア

シネトバクター感染症

カ 新型インフルエンザ等感染症

(113) 新型インフルエンザ、(114) 再興型インフルエンザ、(115) 新型コロナウイルス感染症、
(116) 再興型コロナウイルス感染症

キ 指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(88) R S ウイルス感染症、(89) 咽頭結膜熱、(90) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）(91) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(92) 感染性胃腸炎、(93) 急性出血性結膜炎、(94) クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(95) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(96) 新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）、(97) 水痘、(98) 性器クラミジア感染症、(99) 性器ヘルペスウイルス感染症、(100) 尖圭コンジローマ、(101) 手足口病、(102) 伝染性紅斑、(103) 突発性発しん、(104) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(105) ヘルパンギーナ、(106) マイコプラズマ肺炎、(107) 無菌性髄膜炎、(108) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109) 薬剤耐性緑膿菌感染症、(110) 流行性角結膜炎、(111) 流行性耳下腺炎、(112) 淋菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

(117) 発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3 法第14条第8項の規定に基づく把握の対象

(118) 発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生し、又は発生するおそれがあると判断し、都道府県知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づき届出を求めたもの。

第3 実施主体

実施主体は、徳島県とする。

第4 実施体制

1 徳島県感染症情報センター

県域における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、全国情報と併せて、これらを速やかに徳島県保健福祉部感染症対策課（以下、感染症対策課という。）及び医師会等の関係機関に提供・公開するため、徳島県感染症情報センター（以下、感染症情報センターという。）を徳島県立保健製薬環境センター（以下、保健製薬環境センターという。）内に置く。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

ア 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者及び当該感染症により死亡した者（法第14条第1項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。）の情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ

選定する。

- イ 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、法施行規則第7条の3に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を指定する。

3 分析班

感染症対策課、感染症情報センター、徳島県医師会感染症対策委員会、その他必要に応じた関係機関で、電話及びファクシミリ等により協議し、情報分析を行う。

4 徳島県感染症対策連携協議会

情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、徳島県感染症対策連携協議会に対し、調査の在り方、今後の活用等について諮ることとする。

5 検査施設

徳島県における本事業に係る検体等の検査については、保健製薬環境センターにおいて実施する。保健製薬環境センターは、別に定める検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。また、県は県内における検査が適切に実施されるよう検査体制の整備を図る。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第2の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第2の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を届出基準等通知に基づき診断した場合及び当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体を検案した場合は、別に定める基準に基づき直ちに最寄りの保健所に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。

また、保健所から依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て行政検査依頼書を添付して保健製薬環境センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、当該届出が感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちに感染症サーベイランスシステムに届出内容を入力するものとする。

また、原則として保健所は、当該患者又は保護者の同意を得た上で、当該患者（マラリアを除く。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の保健製薬環境センターへの提供について、行政検査依頼書を添付して依頼するものとする。

(イ) 保健所は、感染症情報センターから提供された患者情報及び病原体情報について、市町村、市町村教育委員会、管内医師会、感染症指定医療機関、指定届出機関等の関係機関に対し、地域の実情に応じた分析を加え、情報提供する。なお、保健所において上記アの届出について、地域の特性に応じた適切な方法を用いて、届出があった事実（個人情報に関

する事項を除く。)を前記のうち適当な機関に迅速に連絡する。

ウ 保健製薬環境センター

(ア) 保健製薬環境センターは、行政検査依頼書及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、感染症対策課、感染症情報センター又は中央感染症情報センター等と情報共有する。

(イ) 検査のうち、保健製薬環境センターにおいて実施することが困難なもの等については、必要に応じて国立感染症研究所等に検査を依頼(検体を送付)する。

(ウ) 保健製薬環境センターは、患者が一類感染症と診断されている場合、県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ 感染症対策課

感染症対策課は、管内の患者情報について、保健所等からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

なお、(1)アの届出があった場合には、適切な方法を用いて、届出があった事実(個人情報に関する事項を除く。)を関係機関に迅速に連絡する。

オ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターにあっては、保健製薬環境センターから報告された病原体情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

(イ) 感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、感染症対策課及び関係各課、保健所、市町村、県及び郡市医師会、感染症指定医療機関、指定届出機関、指定提出機関等関係機関に提供・公開する。

カ 情報の報告等

(ア) 知事は、その管轄する区域外に居住する者について法第12条第1項の規定による届出を受けたときは、当該届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県知事、保健所を設置する市又は特別区の長(以下「都道府県知事等」という。)に通報する。

(イ) 知事は、他の都道府県知事等が管轄する区域内における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第15条の規定による積極的疫学調査の結果を、当該他の都道府県知事等に通報する。

(ウ) (ア)及び(イ)の報告等について、感染症サーベイランスシステムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じた場合には、当該報告したものとみなす。

2 全数把握対象の五類感染症(第2の(75)、(85)及び(86)を除く。)

(1) 対象とする感染症の状態

各々の全数把握対象の五類感染症(第2の(75)、(85)及び(86)を除く。)について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

上記(1)に該当する患者を診断した又は当該感染症により死亡した者(当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。)の死体検案した医師は、別に定める基準に基づき診断後7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。また、保健所から依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て保健製薬環境センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、当該届出が感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちに感染

症サーベイランスシステムに届出内容を入力するものとする。また、保健所は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）、急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、先天性風しん症候群、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の保健製薬環境センターへの提供について、行政検査依頼書を添付して依頼するものとする。

(イ) 保健所は、感染症情報センターから提供された患者情報及び病原体情報について、市町村、市町村教育委員会、管内医師会、感染症指定医療機関、指定届出機関等の関係機関に対し、地域の実情に応じた分析を加え、情報提供を行う。なお、管内の患者情報等に特異な傾向が見られる場合には、感染症対策課と協議の上、その情報について前記のうち適当な機関に提供する。

ウ 保健製薬環境センター

(ア) 保健製薬環境センターは、行政検査依頼書及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、感染症対策課、感染症情報センター又は中央感染症情報センター等と情報共有する。

(イ) 検査のうち、保健製薬環境センターにおいて実施することが困難なもの等については、必要に応じて国立感染症研究所等に検査を依頼（検体を送付）する。

(ウ) 保健製薬環境センターは、県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ 感染症対策課

感染症対策課は、管内の患者情報について、保健所等からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

オ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターにあっては、保健製薬環境センターから報告された検査情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

(イ) 感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、感染症対策課及び関係各課、保健所、市町村、県及び郡市医師会、感染症指定医療機関、指定届出機関、指定提出機関等関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合及び当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体と検案される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点の種別、担当すべき医療機関の条件、対象疾患、調査単位及び報告様式は別表1のとおりとし、定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、徳島県医師会の協力を得て、医療機関の中から患者定点を選定し、感染症法第14条第1項に基づき指定する。

なお、患者定点の数は、保健所管内人口等を勘案し、別表2のとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定し、依頼するものとする。

(3) 調査単位

ア 患者定点

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点（第2の(104)、(108)及び(109)に関する患者情報を除く。）により選定された患者定点に関するものについては、1週間（月曜日から日曜日）を調査単位として、性感染症定点及び基幹定点（第2の(104)、(108)及び(109)に関する情報のみ）に選定された患者定点に関するものについては各月を調査単位とする。

イ 病原体定点

インフルエンザ病原体定点に関するものについては、第2の(90)に掲げるインフルエンザの流行期（患者定点当たりの患者発生数が都道府県単位で1を超えた時点から1を下回るまでの間）には1週間（月曜日から日曜日）を調査単位とし、非流行期には各月を調査単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等の届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。

(ウ) (イ)の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取し、感染症検査票（病原体）を添えて、搬送を担当する専門業者または管轄の保健所を介して保健製薬環境センターに送付する。

(イ) 小児科病原体定点においては、第2の(88)、(89)、(91)、(92)、(97)、(101)から(103)まで、(105)及び(111)の対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を送付するものとする。

(ウ) インフルエンザ病原体定点においては、第2の(90)に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付するものとする。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医療機関からの届出である場合には、患者定点から得られた患者情報が、週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症サーベイランスシステムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、感染症対策課へ報告する。

(イ) 保健所は、感染症情報センターから提供された患者情報及び病原体情報について、週報（月単位の場合は月報）として、市町村、市町村教育委員会、管内医師会、感染症指定医療機関、患者定点等の関係機関に配布する。なお、管内の患者情報等の特異な傾向が見られる場合には、感染症対策課と協議の上、その情報について前記のうち適当な機関に提供する。

エ 保健製薬環境センター

(ア) 保健製薬環境センターは、病原体定点から検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として病原体定点に通知するとともに、感染症情報センターに報告するものとする。

(イ) 検査のうち、必要な場合には、国立感染症研究所等に検査を依頼（検体を送付）する。

(ウ) 保健製薬環境センターは、県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所等に送付する。

オ 感染症対策課

感染症対策課は、管内の患者情報について、保健所等からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

カ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、保健製薬環境センターから報告された病原体情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

(イ) 感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、感染症対策課及び関係各課、保健所、市町村、県及び郡市医師会、感染症指定医療機関、指定届出機関、指定提出機関等関係機関に提供・公開する。

4 法第14条第1項に規定する疑似症（定点）

(1) 対象とする疑似症

各々の疑似症について、別に定める届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症の発生状況を地域的に把握するため、徳島県医師会等の協力を得て定点を選定する。定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案しつつ、できるだけ県全体の疑似症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

イ 対象となる医療機関

疑似症定点の届出医療機関は、以下の医療機関のうちから、ア) からウ) の順に優先順位をつけ、別に定める基準を踏まえて選定すること。

ア) 診療報酬に基づく特定集中治療室管理料（1～4）、小児特定集中治療室 管理料又はハイケアユニット入院医療管理料（1～2）の届出をしている医療機関

イ) 法に基づく感染症指定医療機関

- ・法に基づく第一種感染症指定医療機関
- ・法に基づく第二種感染症指定医療機関

ウ) マスギャザリング（一定期間に限られた地域において同一目的で集合した多人数の集団）において、疑似症定点として選定することが疑似症発生状況の把握に有用な医療機関

（例：大規模なスポーツ競技大会等において、観客や大会運営関係者等が受診する可能性のある医療機関）

なお、感染症対策課は、疑似症定点と疑似症定点以外の医療機関との連携体制をあらかじめ構築するよう取組むこととし、疑似症定点以外の医療機関においても別に定める届出基準に該当すると判断される患者については、疑似症定点や管内の保健所等に相談できるよう予め疑似症定点に指定されている医療機関名や相談先を示すなどの配慮を行い、疑似症の迅速かつ適切な把握に努めること。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における別に定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

る。

(イ) (2) により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、別に定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として感染症サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 保健所

(ア) 保健所は、疑似症定点において感染症サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、感染症サーベイランスシステムに入力するものとし、また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、感染症対策課へ報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、必要に応じて市町村、市町村教育委員会、管内医師会、感染症指定医療機関、患者定点等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 感染症対策課

感染症対策課は、管内の疑似症情報について、保健所等からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

エ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、県域内の全ての疑似症情報について情報を収集、分析する。

(イ) 感染症情報センターは、中央感染症情報センターから週報等として公表される全国情報と

(ア) の結果を併せて、感染症対策課及び関係各課、保健所、市町村、県及び郡市医師会、感染症指定医療機関、指定届出機関、指定提出機関等関係機関に提供・公開する。

5 積極的疫学調査

(1) 積極的疫学調査とは、法第15条に規定する感染症の発生の状況、動向及び原因の調査をいう。

(2) 積極的疫学調査が行われる場合としては、①一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症又は指定感染症が発生した場合、②五類感染症等に係る感染症発生動向調査において通常と異なる傾向が認められた場合等が考えられるが、個別の事例に応じ、感染症対策課と協議の上、保健所において適切に判断する。また、保健所が積極的疫学調査を行う場合にあっては、関係者の理解と協力を得つつ、関係機関と密接な連携を図ることにより、地域における流行状況や原因不明の感染症等の迅速な把握を進めていく。

第6 その他

本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて別途定めることとする。

附 則

この実施要綱は、平成15年3月20日から施行する。

附 則

この実施要綱の改正は、平成15年9月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成19年12月21日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成20年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成20年5月12日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成20年7月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成23年5月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成23年9月5日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年2月22日から施行し、同年3月4日から適用する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年3月7日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年5月6日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成27年5月21日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成28年4月1日から施行する。ただし、第2の1の対象感染症の追加に係る改正については、平成28年2月15日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成30年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成30年3月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成30年5月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和2年2月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和2年5月29日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和3年2月13日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和4年10月31日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和5年5月8日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和5年5月26日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、令和5年9月25日から施行する。

徳島県感染症発生動向調査事業年報

2023（令和 5）年版

発行	2024（令和 6）年 12 月
編集・発行	徳島県立保健製薬環境センター （徳島県感染症情報センター） 〒770-0855 徳島市新蔵町 3 丁目 80 番地 電話 088-625-7752
印刷所	グランド印刷株式会社

